

Autodesk® Vault Server 2013 アドバンス コンフィグレーション ガイド

目次

はじめに	1
Autodesk Vault Server 2013 のインストール	1
Autodesk Vault Server 2013 のインストールのカスタマイズ	1
IIS	3
Autodesk Vault Server 2013 の Windows 7, Server 2008, Server 2008 R2 へのインストール ..3	
インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7.0 の設定	3
別の .NET バージョンを使用する他の Web アプリケーションとのAutodesk Vault Server 2013 の共存インストール	8
インターネット インフォメーション サービス (IIS) 6	9
インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7	9
Vault Serverのインストール後 Windows 2008でのWindows 認証の有効化	11
IIS 7.0にSSL 認証を設定	16
IIS ワーカー プロセス と アプリケーション プールを再設定	17
SQL	20
Autodesk Vault Server 2013 の前に Microsoft SQL Server をインストール	20
Microsoft SQL 2008.....	20
Microsoft SQL 2008 R2 (Express Edition).....	22
Microsoft SQL 2008 R2 (Standard もしくは Enterprise)	25
SQL ログインを再設定	28
ドメイン コントローラに SQL Server をインストール	31
AUTODESKVAULT SQL インスタンスのアップグレード	31
MS SQL Express 2008 SP2 を SQL Express 2008 R2 にアップグレード	32
MS SQL Express 2008 SP2 をフル バージョンの MS SQL 2008 にアップグレード	32
MS SQL Express 2008 R2 をフル バージョンの MS SQL 2008 R2 にアップグレード	33
SQLスタンダードあるいはエンタープライズにアップグレード後.....	33
SQL のカスタム TCP/IP ポートの割り当て	34
リモートのファイル保管場所の管理	36
ファイル保管場所をマッピング済みドライブまたはリモート共有に移動.....	37
ボールド ファイル保管場所を移動.....	38
ユーザー アカウント制御	39
インストール後のコンフィグレーションの変更.....	40
リモートのバックアップ場所のセットアップ	40
FQDN によるリモートからの Vault 接続の設定	41
Autodesk Vault サーバーの各種タイムアウト値の変更	41
Autodesk Vault Server での SSL の使用	42
ADMS サーバー マシンの設定.....	42
サーバー証明書の取得とインストール(IIS 6.0)	42

IIS 7でのサーバー証明書の設定	42
SSL アクセスを要求するAutodeskDM 仮想ディレクトリの設定	43
クライアント コンフィグレーション	44
Internet Explorer 8 を使用したクライアント コンピュータの設定	44
クライアント アプリケーションから SSL を使用したログイン	47
プロキシ サーバー経由でのVault の使用	48
Internet Explorer 8.x、9.xのプロキシ設定の変更	48
ホスト名を使用するようにプロキシ サーバーを設定.....	48
アプリケーション設定ファイルを使用してプロキシ サーバーをバイパス	49
Autodesk Vault Server のログ ファイル	50
Vault サーバーのログ ファイル	50
Autodesk Vault Server 2013 のインストール ログ ファイル	50
Autodesk サーバ診断ツールのログ ファイル	51
Microsoft SQL Server のログ ファイル	51
DWG 用 iFilter のログ ファイル	51
W3C 拡張形式のログをカスタマイズ (IIS 6)	51
IISのログ機能の有効化 (7.0 以降)	54
Vault Collaboration と Professional 2013 のマルチサイト複製	58
レプリケーション の拡張性	58
複製環境のコンテンツ センター.....	59
プライベート コンテンツ センター フォルダ	59
コンテンツ センター フォルダの取得	61
改訂履歴	62

はじめに

この『アドバンス コンフィグレーション ガイド』には、Autodesk® Vault Server 2013 のセットアップに関する補足情報が記載されています。このガイドの内容は Autodesk® Vault Server に関連するものであり、各設定の説明で特記されていない限り Vault 2013 のすべてのバージョンに適用できます。ただし、高度な設定を説明しているため、IT 関連の作業にある程度慣れていることが前提となります。より詳しい情報については、WikiHelpを参照してください。

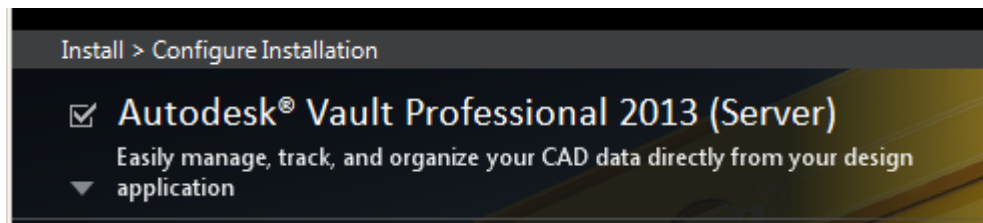
Autodesk Vault Server 2013 のインストール

標準的なインストール設定については、WikiHelp を参照してください。

Autodesk Vault Server 2013 のインストールのカスタマイズ

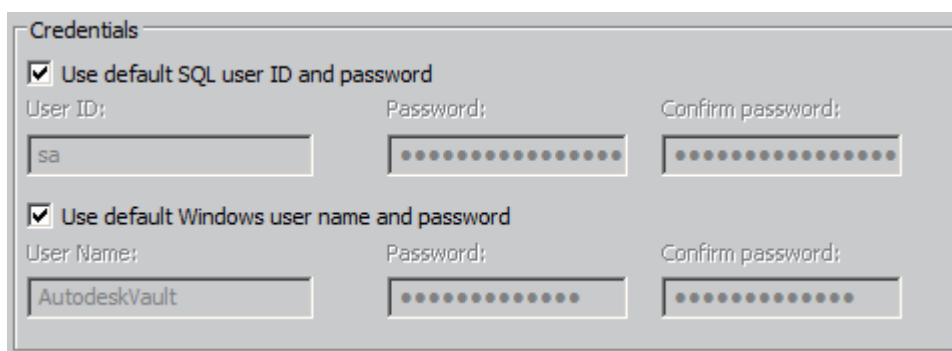
インストールをカスタマイズするには、以下の手順に従います。

1. [インストール] > [インストールの環境設定]画面で、[使用している設計アプリケーションから直接CADデータを容易に管理、トラッキング、編成]の先頭にある下向きの矢印を選択します。

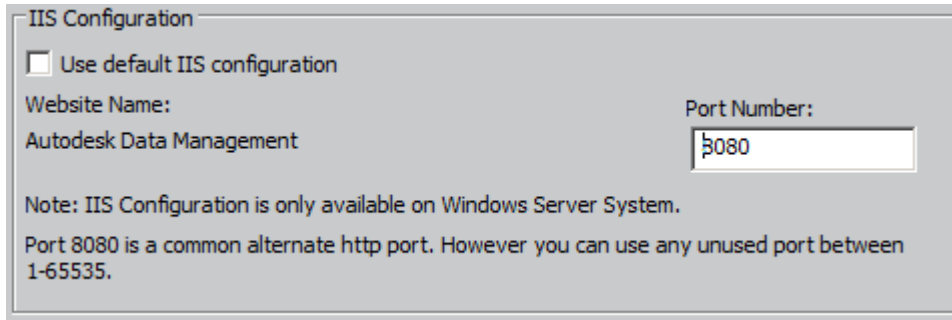


2. SQL がインストールされていないマシンの場合は、データベース オプションで SQL のインストール場所を指定できます。また、リモート SQL の場所が使用可能である場合は、そのオプションが選択できるようになります。[独自の SQL 認証を使用する]の横にあるチェック ボックスをオンにすると、インストール時に SQL の sa パスワードを設定できます。

Autodesk Vault Server の前に、既定値の **AutodeskVault@26200** 以外の sa パスワードを使用して AutodeskVault SQL インスタンスがインストールされていた場合には、このパスワードを入力する必要があります。また、必要であれば、偽装ユーザーアカウントを指定することもできます。

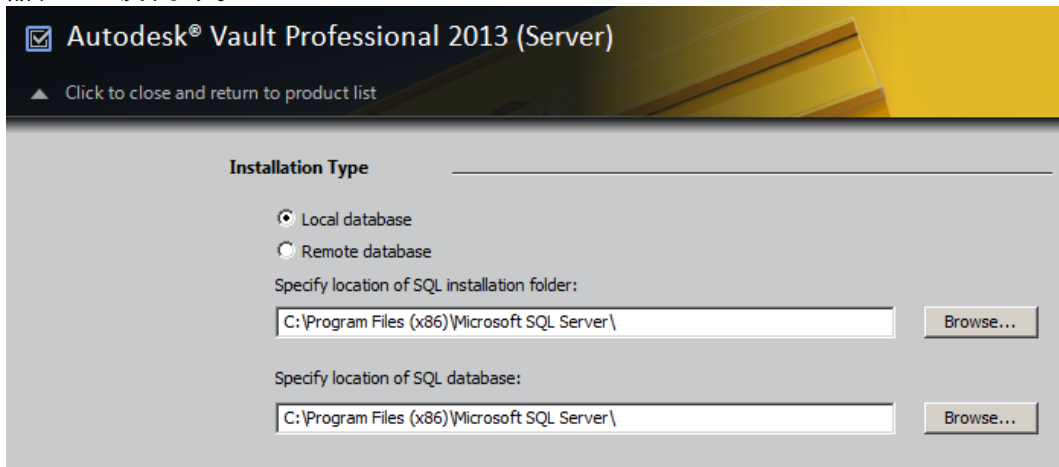


3. Vault Server 2013 では、IIS のポートを既定値の HTTP ポートである 80 以外に自動的に設定することもできます。



The screenshot shows the 'IIS Configuration' dialog box. It has a checkbox labeled 'Use default IIS configuration' which is unchecked. Below this, there are two fields: 'Website Name:' with the text 'Autodesk Data Management' and 'Port Number:' with a text box containing '8080'. At the bottom, there is a note: 'Note: IIS Configuration is only available on Windows Server System. Port 8080 is a common alternate http port. However you can use any unused port between 1-65535.'

4. 表示されているオプションの一番上にある上向きの矢印を選択すると、インストール製品リストに戻ります。



The screenshot shows the 'Autodesk® Vault Professional 2013 (Server)' installation window. At the top, there is a checkbox labeled 'Autodesk® Vault Professional 2013 (Server)' which is checked. Below it, there is a link: 'Click to close and return to product list'. The main section is titled 'Installation Type' and contains two radio buttons: 'Local database' (selected) and 'Remote database'. Below these, there are two text boxes for specifying the location of the SQL installation folder and the SQL database, both containing the path 'C:\Program Files (x86)\Microsoft SQL Server\'. To the right of each text box is a 'Browse...' button.

IIS

Autodesk Vault Server 2013 の Windows 7, Server 2008, Server 2008 R2 へのインストール

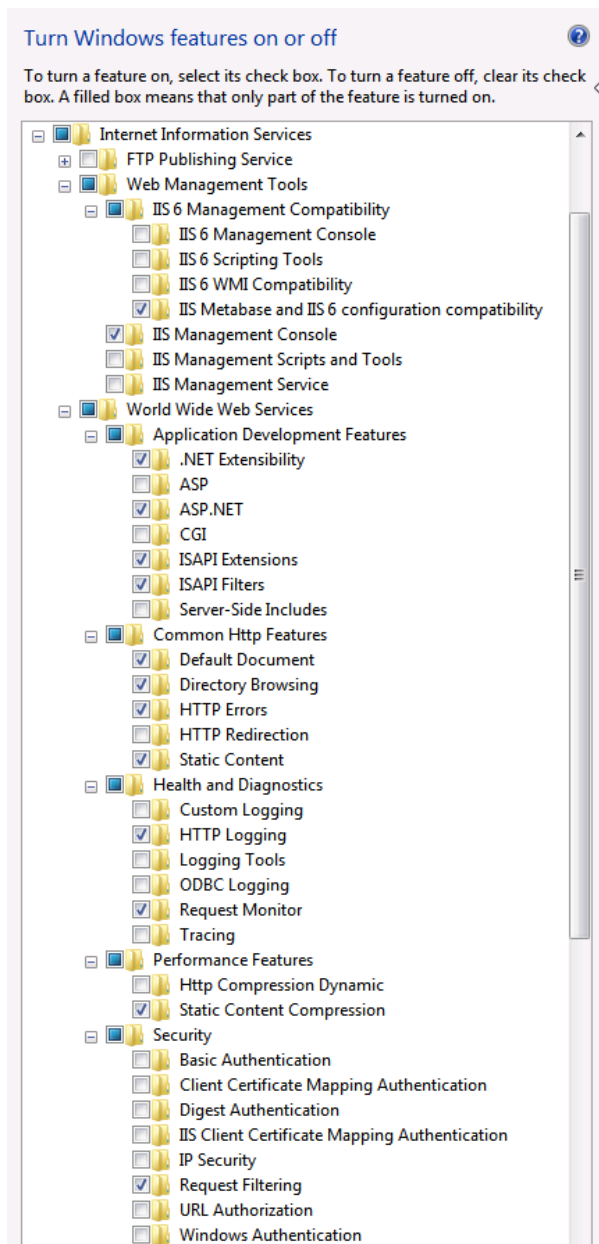
注意: IIS 7.0はサーバー以外のOSの場合、同時の処理要求は最大で10個までという制限があります。接続制限に達すると、要求された処理はキューとして入れられ、現在処理している要求数が制限を下回った時に、キュー内の1つ目の要求から順に処理されます。以前のバージョンのIISでは『エラー 403.9 – アクセスは許可されていません: 多数のユーザーが接続中です。』というエラーが返されます。

インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7.0 の設定

Autodesk Vault ServerでMicrosoft® Internet Information Services (IIS) 7.0を使う場合、IIS 7.0はAutodesk Vault Serverをインストールする前に設定を行うことができます。Autodesk Vault Server 2013インストールプロセスでIIS 7.0をインストールすることもできます。IIS 7.0を手動でインストールする場合、下記のシステムオプションの設定を行ってください。

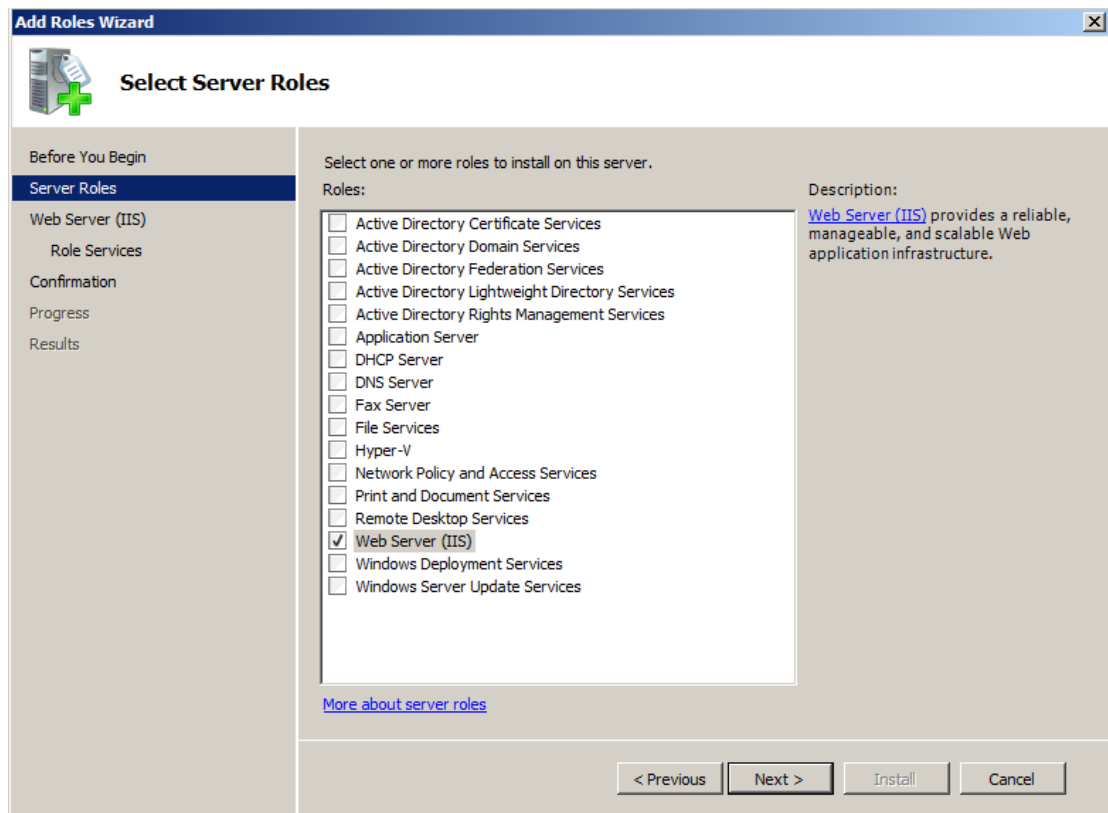
Windows 7

1. Windowsスタートメニューから[設定]-[コントロール パネル]を選択します。
2. [コントロールパネル]で、[プログラムと機能]をダブルクリックします。
3. [プログラムと機能]グループで、[Windowsの機能の有効化または無効化]をクリックします。
4. アプリケーションの実行を許可するように表示されるので、[続行]をクリックします。
5. **Internet Information Services**の下で以下のオプションを選択します。
[IIS Metabase および IIS 6 構成との互換性]、[IIS 管理コンソール]、[.NET 拡張機能]、[ASP.NET]、[ISAPI 拡張機能]、[ISAPI フィルタ]、[既定のドキュメント]、[ディレクトリの参照]、[HTTP エラー]、[静的コンテンツ]、[HTTP ログ]、[要求監視]、[静的コンテンツ圧縮]、[要求フィルタ]

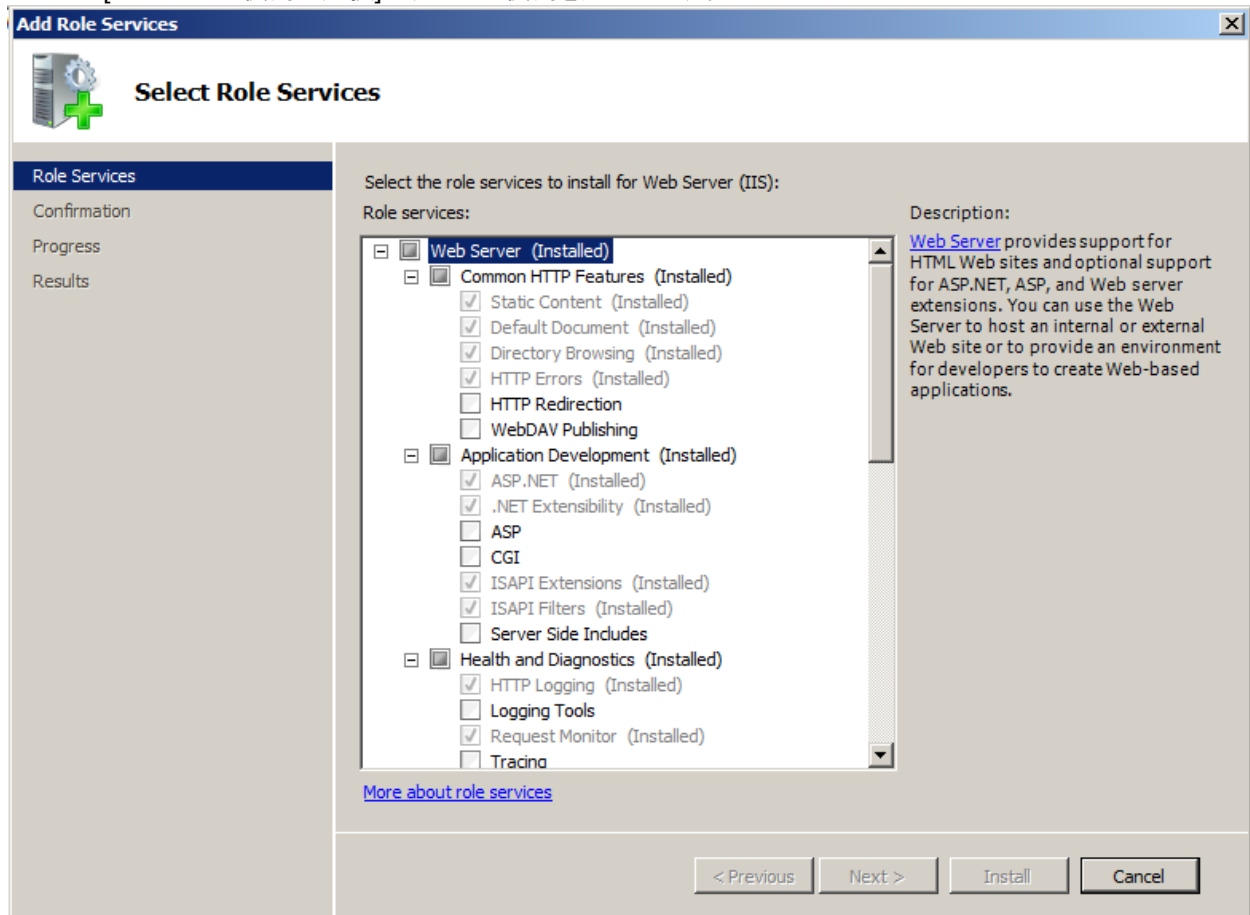


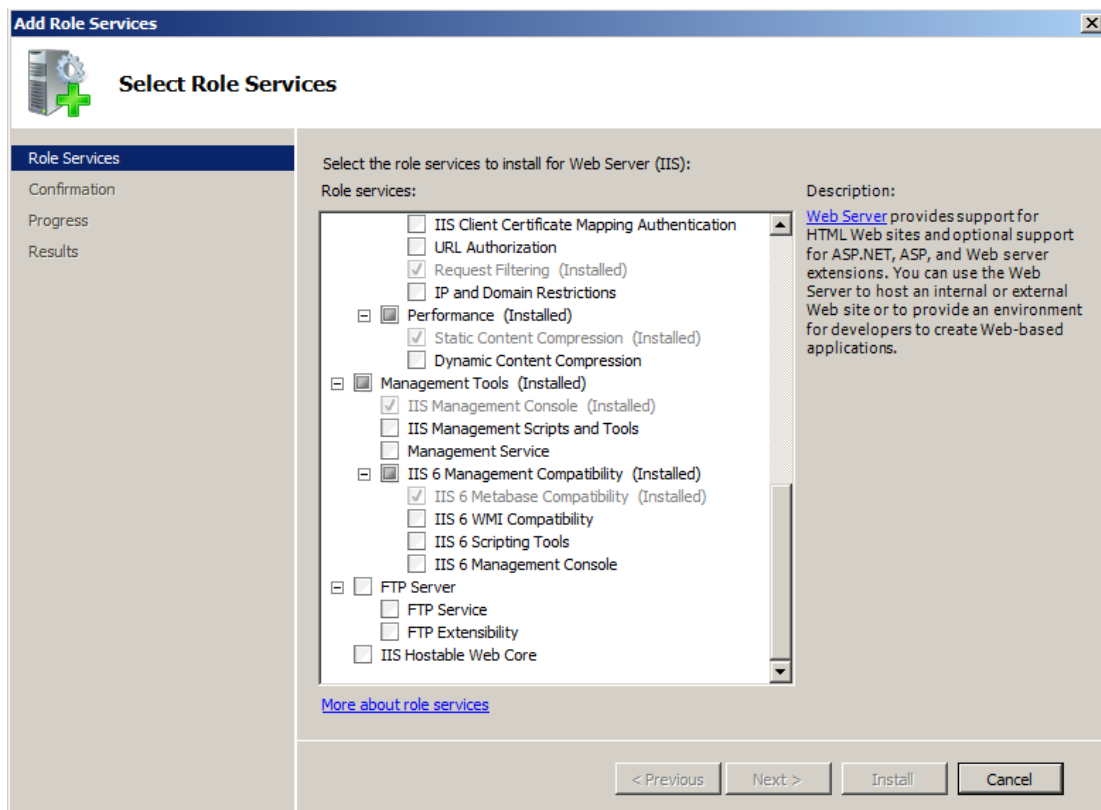
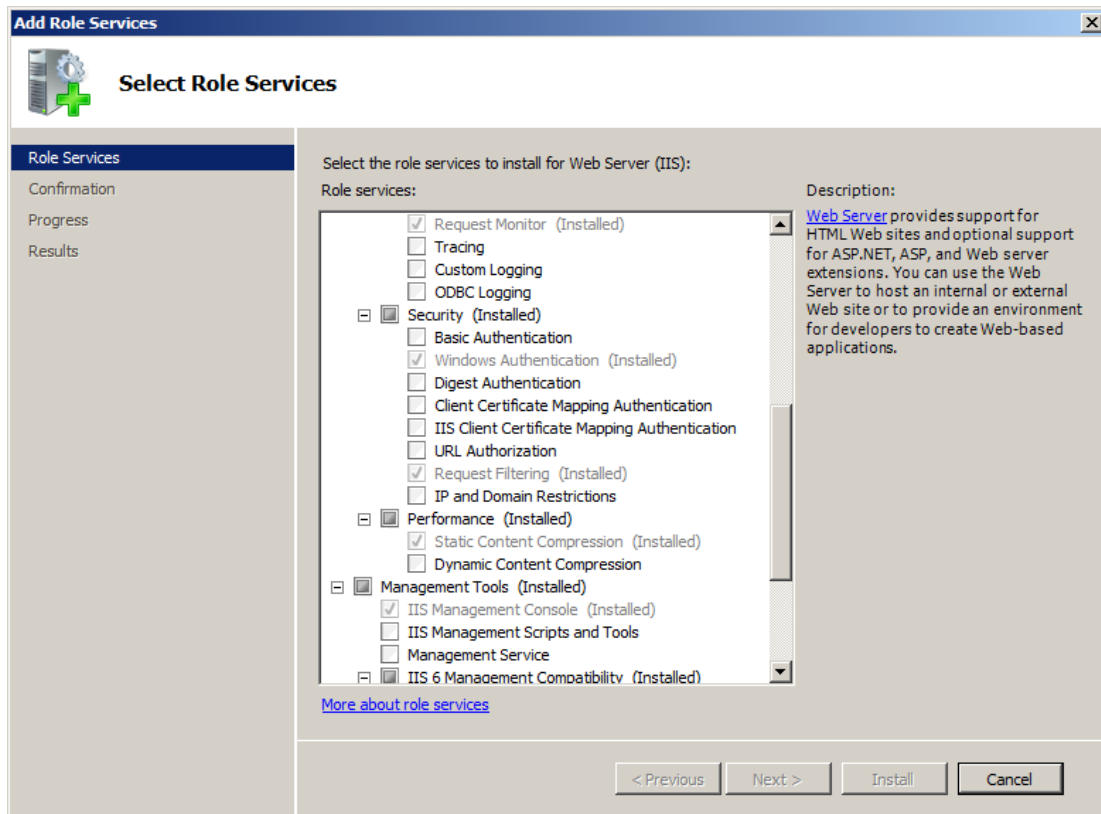
Windows 2008 / 2008 R2

1. Windowsスタートメニューからサーバーマネージャーを選択します。
2. [役割の概要]から[役割の追加]を選択します。
3. [Web サーバー(IIS)]を選択し、以下のロールを追加します



4. [サーバーの役割の選択]で、以下の役割を追加します。





Role Services: 22 installed		
Role Service		Status
 Web Server		Installed
 Common HTTP Features		Installed
 Static Content		Installed
 Default Document		Installed
 Directory Browsing		Not installed
 HTTP Errors		Installed
 HTTP Redirection		Not installed
 Application Development		Installed
 ASP.NET		Installed
 .NET Extensibility		Installed
 ASP		Not installed
 CGI		Not installed
 ISAPI Extensions		Installed
 ISAPI Filters		Installed
 Server Side Includes		Not installed
 Health and Diagnostics		Installed
 HTTP Logging		Installed
 Logging Tools		Not installed
 Request Monitor		Installed
 Tracing		Not installed
 Custom Logging		Not installed
 ODBC Logging		Not installed
 Security		Installed
 Basic Authentication		Not installed
 Windows Authentication		Installed
 Digest Authentication		Not installed
 Client Certificate Mapping Authentication		Not installed
 IIS Client Certificate Mapping Authentication		Not installed
 URL Authorization		Not installed
 Request Filtering		Installed
 IP and Domain Restrictions		Not installed
 Performance		Installed
 Static Content Compression		Installed
 Dynamic Content Compression		Not installed
 Management Tools		Installed
 IIS Management Console		Installed
 IIS Management Scripts and Tools		Not installed
 Management Service		Not installed
 IIS 6 Management Compatibility		Installed
 IIS 6 Metabase Compatibility		Installed
 IIS 6 WMI Compatibility		Not installed
 IIS 6 Scripting Tools		Not installed
 IIS 6 Management Console		Not installed

別の .NET バージョンを使用する他の Web アプリケーションとの Autodesk Vault Server 2013 の共存インストール

Autodesk のデータ管理ソフトウェアは通常、他の Web アプリケーションとともに IIS の「既定の Web サイト」にインストールされます。しかし、別の .NET Framework バージョンを必要とするアプリケーションもあります。このセクションでは、Autodesk Vault Server の仮想ディレクトリを、既定値のアプリケーション プール内で異なる .NET バージョンを使用して動作するよう設定する方法について説明します。IIS 6.0 では同じアプリケーション プール内で 2 つの異なるバージョンの .NET Framework を実行することはできません。この制限を回避するには、アプリケーション

ン プールをもう 1 つ作成し、これを .NET Framework 4.0 を実行するよう設定する必要があります。Autodesk Vault Server インストールを実行する前に、.NET 4.0 を使用するよう[既定の Web サイト]を設定する必要があります。

インターネット インフォメーション サービス (IIS) 6

注: この設定を変更した場合、設定をそのアプリケーションで必要な .NET バージョンに戻すまで[既定の Web サイト]にある他の仮想フォルダはすべて .NET 2.0 を利用できなくなります。

IIS 管理コンソールを開きます。

1. 各仮想ディレクトリを開き、使用するよう設定されている .NET のバージョンをメモします。
2. [既定の Web サイト]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
3. [ASP.NET]タブで、ドロップダウン リストから**.NET 4.0.30319**を選択して[OK]をクリックします。
4. Autodesk Vault Server 2013 をインストールします。

アプリケーション プールを作成します

1. [コントロール パネル]の[管理ツール]から、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]を開きます。
2. [アプリケーション プール]フォルダを右クリックします。[新規作成]、[アプリケーション プール]の順にクリックします。
3. [新しいアプリケーション プールの追加]ダイアログ ボックスで、[アプリケーション プール ID]フィールドに **AutodeskAppPL** と入力します。
4. [テンプレートとして既存のアプリケーション プールを使用する]ラジオ ボタンを選択し、テンプレートとして **DefaultAppPool** を使用します。
5. [OK]をクリックして変更内容を適用します。

作成したアプリケーション プールをアプリケーションに割り当てます

1. [既定の Web サイト]を展開し、仮想ディレクトリ **AutodeskDM\Services** に移動します。
2. [AutodeskDM]の下階層にある[Services]フォルダを右クリックして[プロパティ]を選択します。
3. [ディレクトリ]タブで、[アプリケーション プール]ドロップダウン リストから新しく作成した **[AutodeskAppPL]**アプリケーション プールを選択します。
4. 変更を適用し、Services 仮想ディレクトリのプロパティを閉じます。

.NET Framework のバージョンをリセットします

1. [既定の Web サイト]の[プロパティ]を開きます。
2. [ASP.NET]タブで、ドロップダウンリストから元の .NET バージョンを選択します。
注: .NET 4.0 から他のバージョンの .NET へ変更する場合、AutodeskDM\Services の仮想ディレクトリを .NET 4.0 へ戻して再設定する必要があります。
3. すべての仮想ディレクトリに対して、アプリケーションが対応している正しい .NET バージョンが設定されていることを確認してください。

インターネット インフォメーション サービス (IIS) 7

アプリケーション プールを作成します

1. [コントロール パネル]の[管理ツール]から、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ]を開きます。
2. [アプリケーション プール]フォルダを右クリックし、[アプリケーション プールの追加]をクリックします。
3. [名前]フィールドに **AutodeskAppPL** と入力します。
4. **.NET Framework バージョン**が “.NET Framework v4.0.30319”に設定されていることを確認します。**マネージ パイプライン モード** が **統合** に設定されているを確認しま

す。**[アプリケーション プールを直ちに開始します]**がチェックされていることを確認します。

5. **[OK]**をクリックして変更内容を適用します。

作成したアプリケーション プールをアプリケーションに割り当てます

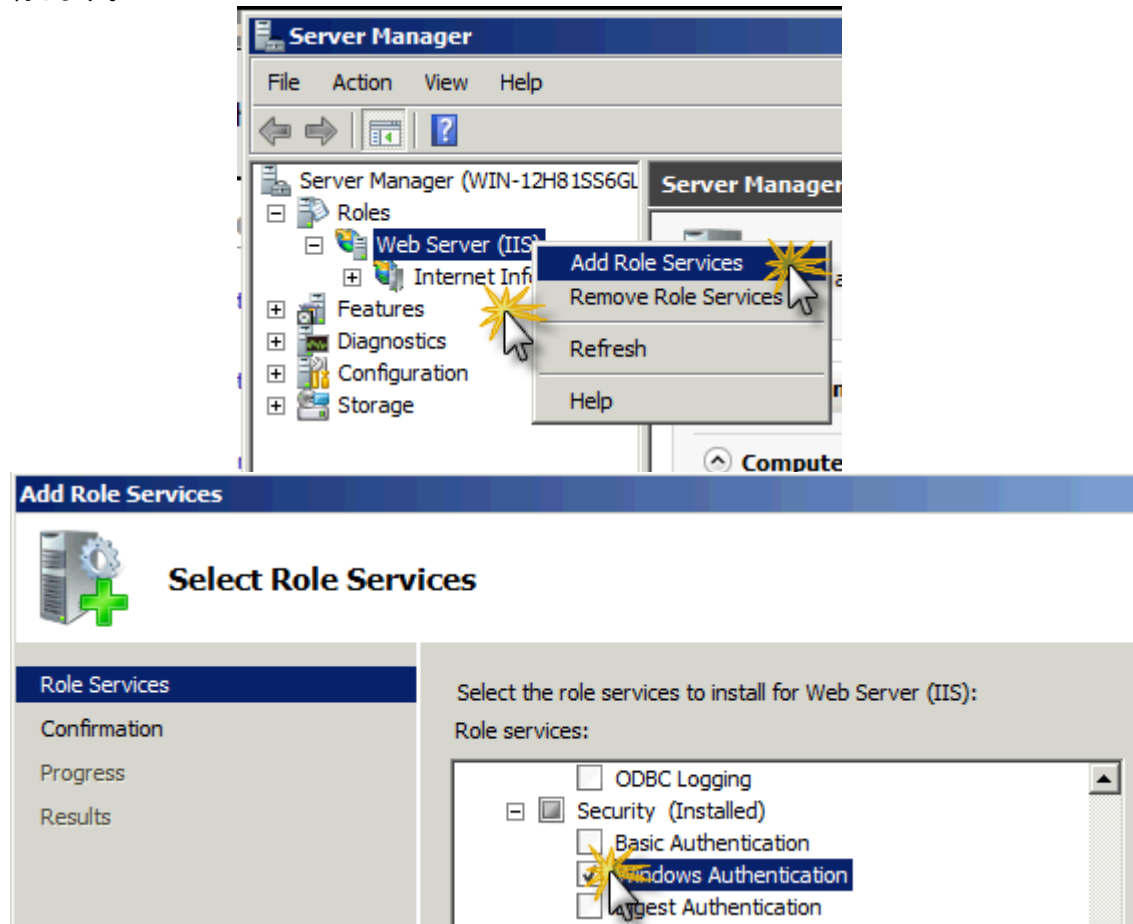
1. **[既定の Web サイト]**を展開し、**AutodeskDM\Services** 仮想ディレクトリに移動します。
2. **[Services]**ディレクトリを右クリックして**[アプリケーションの管理]**、**[詳細設定]**の順に選択します。
3. **[一般]**で、アプリケーション プールを **AutodeskAppPL** に変更します。
4. **[OK]**をクリックして変更を適用し、Services 仮想ディレクトリのプロパティを閉じます。

Vault Serverのインストール後 Windows 2008でのWindows 認証の有効化

以下はWindows 2008、Windows 2008 R2とWindows 2003用です。

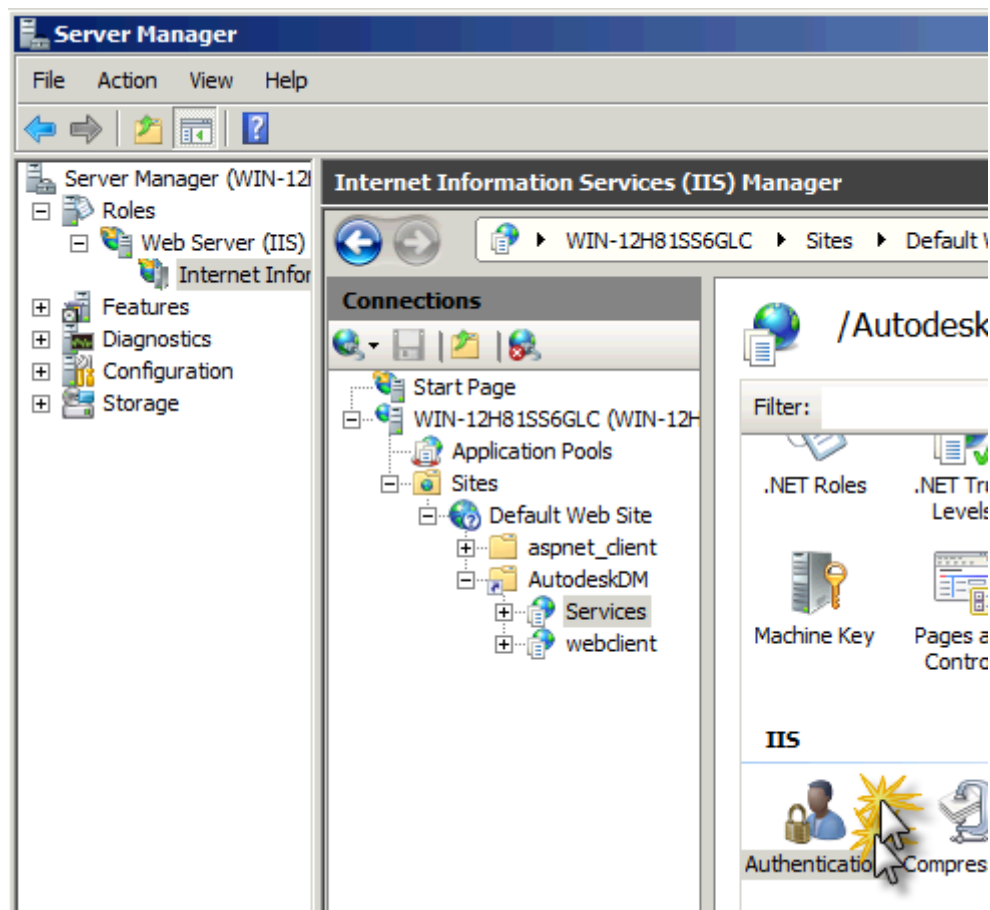
Windows 2008 (IIS7)でWindows認証を有効にするための手順

1. Windows 2008 で[サーバーマネージャー]を実行し、[役割]を展開し、Web サーバー(IIS)上で右クリックし[役割サービスの追加]選択します。[Windows 認証] をチェックしインストールを実行します。

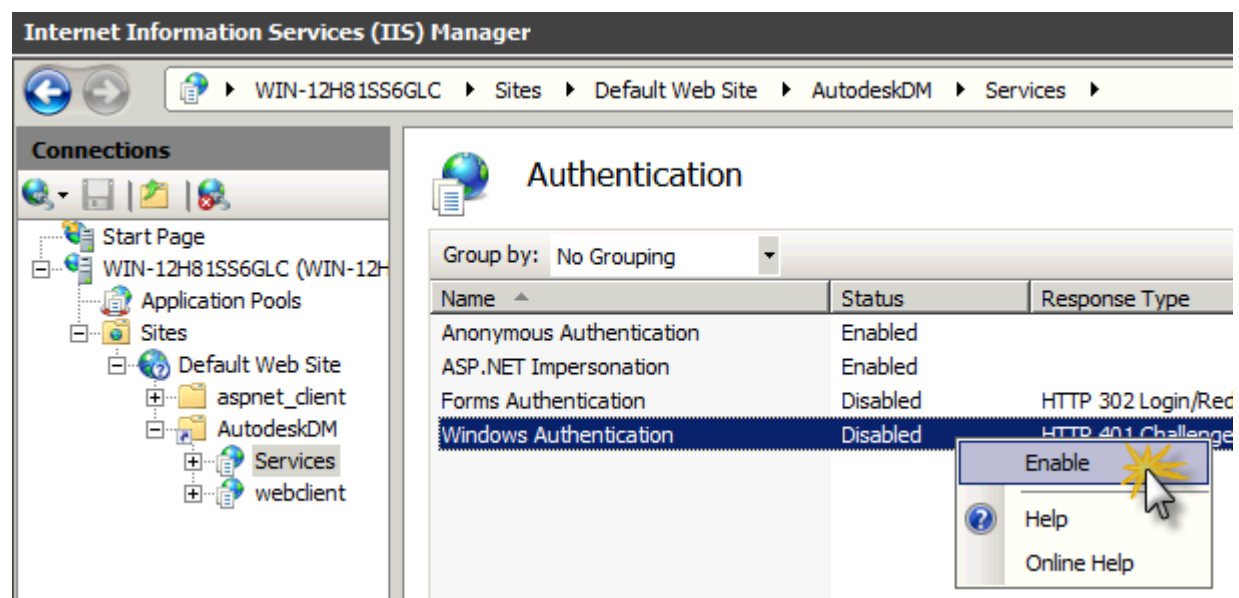


2. [サーバーマネージャー] - [Web サーバー(IIS)]を展開し、[インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャ]をクリックして、[コンピュータ名] - [サイト] - [Default Web Site] - [AutodeskDM] - [Services] を選択し IIS セクションの下に認証をダブルクリックします。

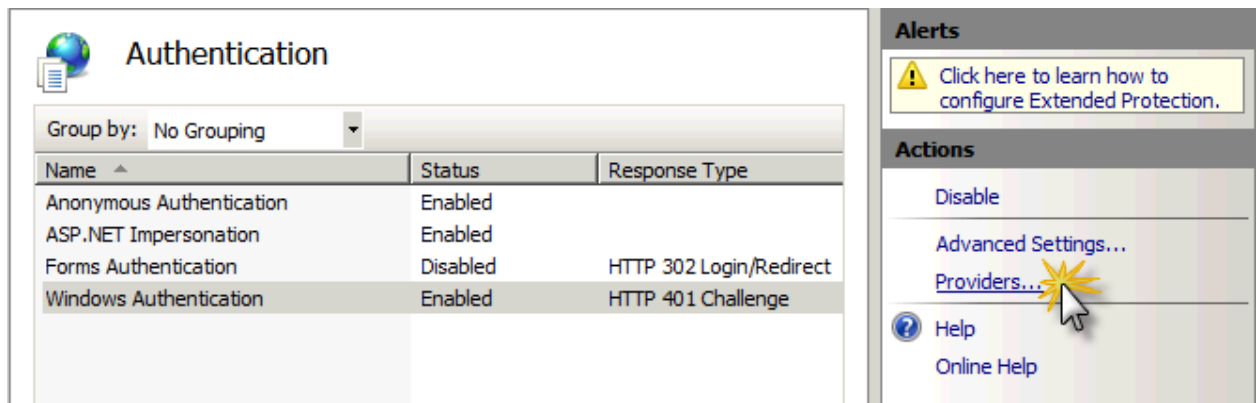
注意: Windows 認証を有効にする必要があるのはサービスのみです。デフォルトウェブサイトあるいはAutodeskDMディレクトリでWindows認証を有効にする必要はありません。



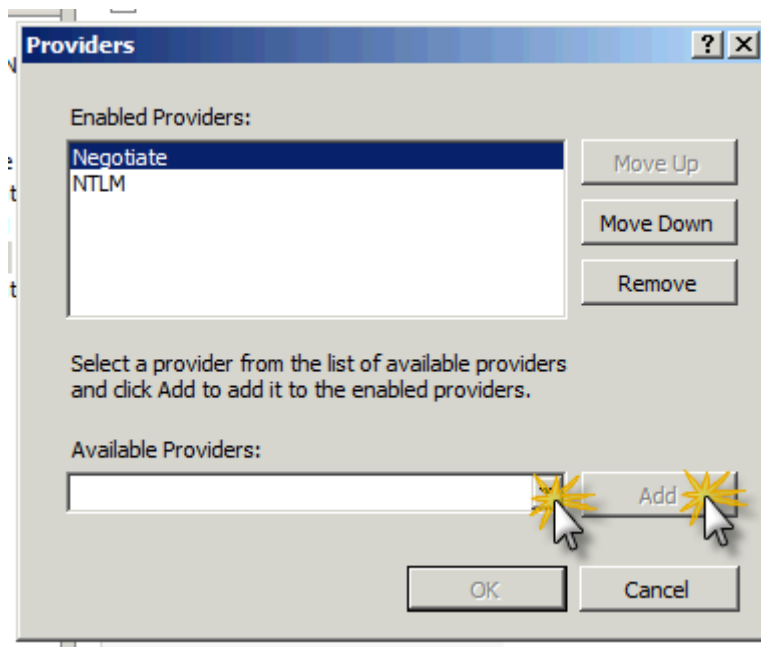
3. Windows 認証が有効になっていることを確認してください。もし有効にするになっていなければ右クリックをし、有効にしてください。



Windows 2008 R2では、Windows 認証を選択した状態で「プロバイダ」を選択し、「Negotiate」と「NTLM」がリストにあることを確認してください。



選択されていないければ「利用可能なプロバイダ」を、「プロバイダ..」をクリックし追加します。



下記の順でリストされていることを確認します。

1. Negotiate
2. NTLM

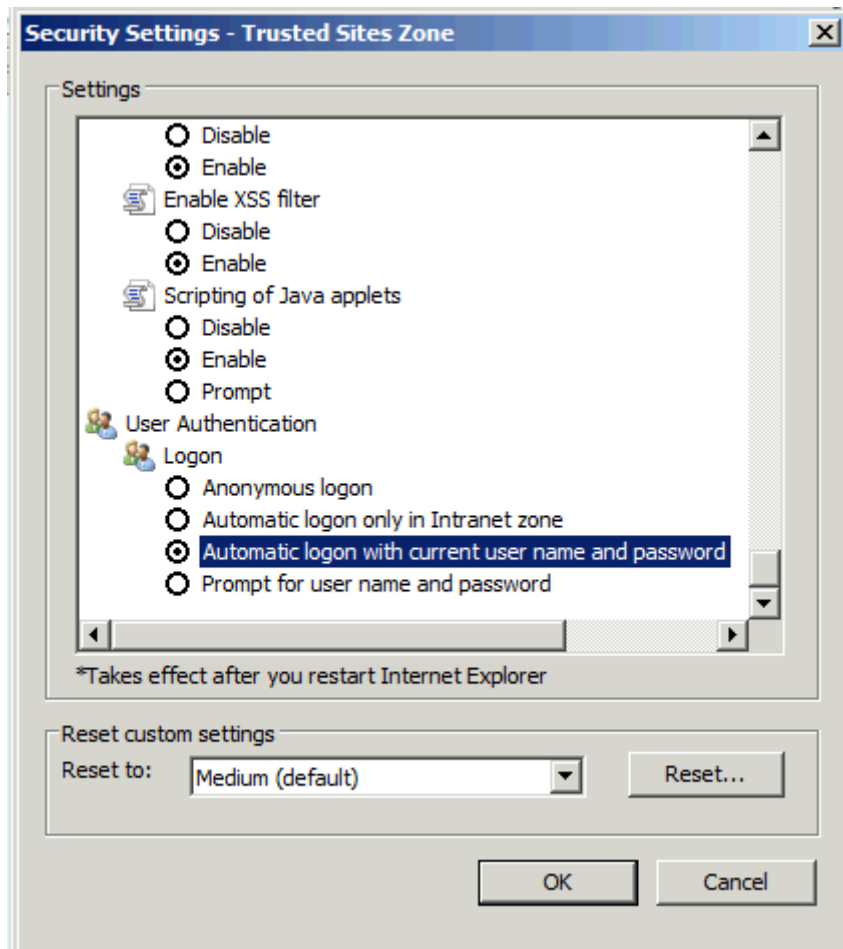
IISで「IIS 管理スクリプトおよびツール」の役割サービスをインストールすると、UI設定の選択肢が上記の二つのスクリーンショットのように示されます。コマンドプロンプトを開き下記のコマンドを実行します(引用なし); ウェブサイトが「Default Web Site」以外であれば、各コマンドを走らせる前に置換をおこないます:

A) "C:\Windows\System32\inetsrv\appcmd.exe set config "Default Web Site/AutodeskDM/Services" - section:system.webServer/security/authentication/windowsAuthentication /+ "providers.[value='Negotiate']" /commit:apphost"

B) "C:\Windows\System32\inetsrv\appcmd.exe set config "Default Web Site/AutodeskDM/Services" -

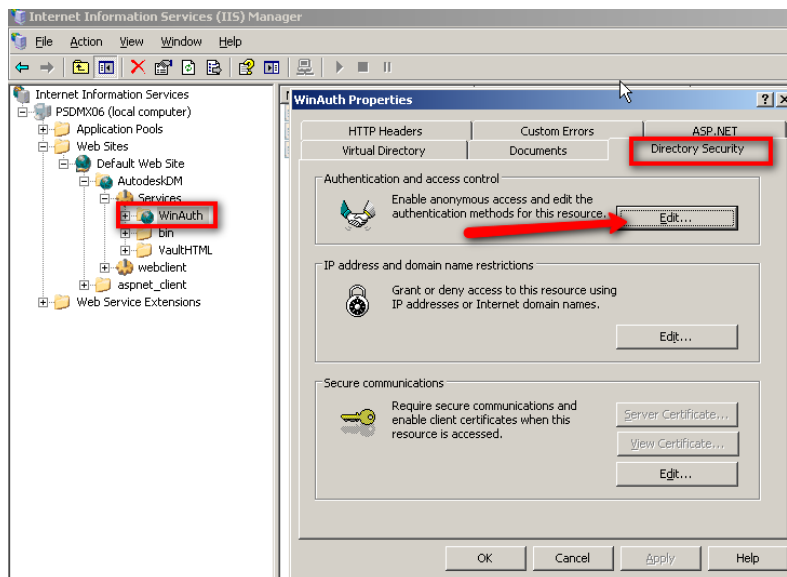

```
section:system.webServer/security/authentication/windowsAuthentication  
/+"providers.[value='NTLM']" /commit:apphost"
```

Internet Explorerの「インターネット オプション」の「セキュリティ設定」内の「ユーザー認証」を「現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする」に設定します。

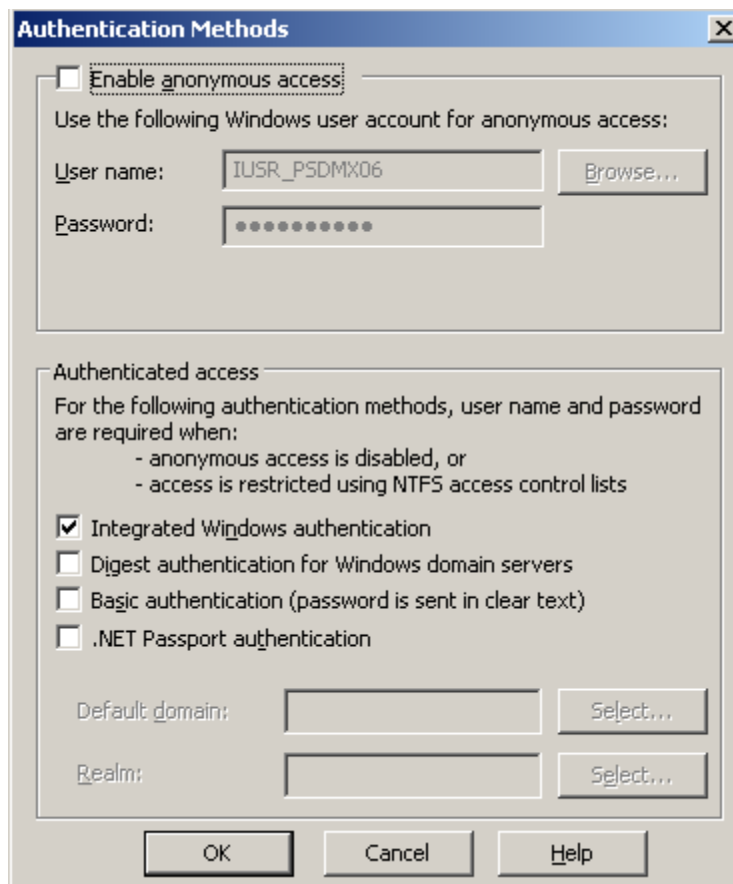


Windows Server 2003 (IIS6)

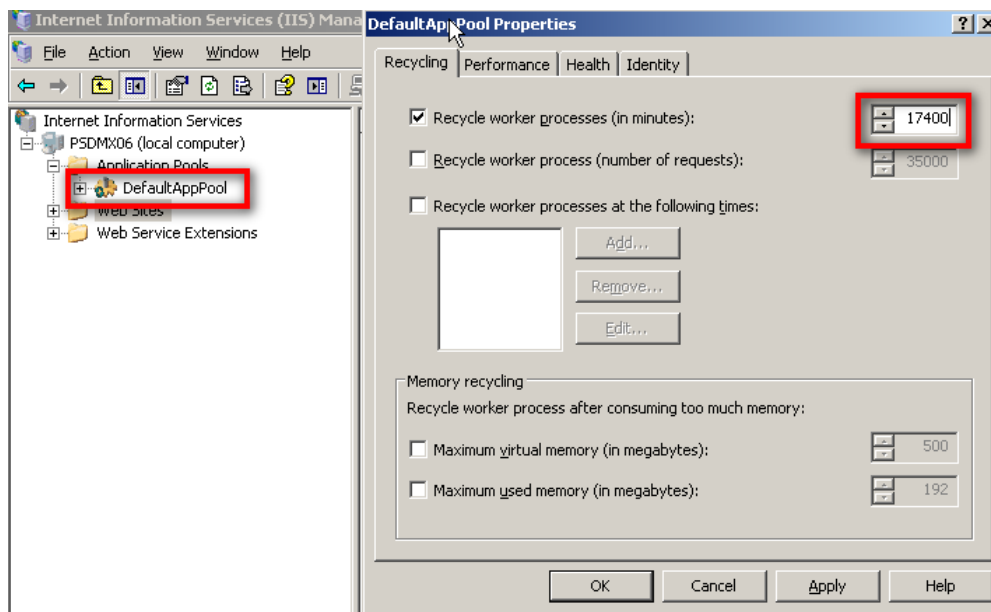
1. IIS の内部の AutodeskDM\Services の下の WinAuth フォルダで右クリックし、プロパティを選択。ディレクトリ セキュリティ タブを選択し認証とアクセス制御内の編集をクリックします。



2. 統合 Windows 認証のみが有効になっていることを確認します。



3. メモ帳(テキスト エディタ)を使い、C:\Program Files\Autodesk\ADMS Professional 2013\Server\Web\Services\WinAuth\web.config ファイルを開きます。
4. <identity impersonate="true"/> を <identity impersonate="false"/>に変更します。
5. ファイルを保存し、メモ帳を閉じます。
6. AutodeskDM ウェブサイトによって使用されているアプリケーションプールを選択し、右クリックしてプロパティを選択します。

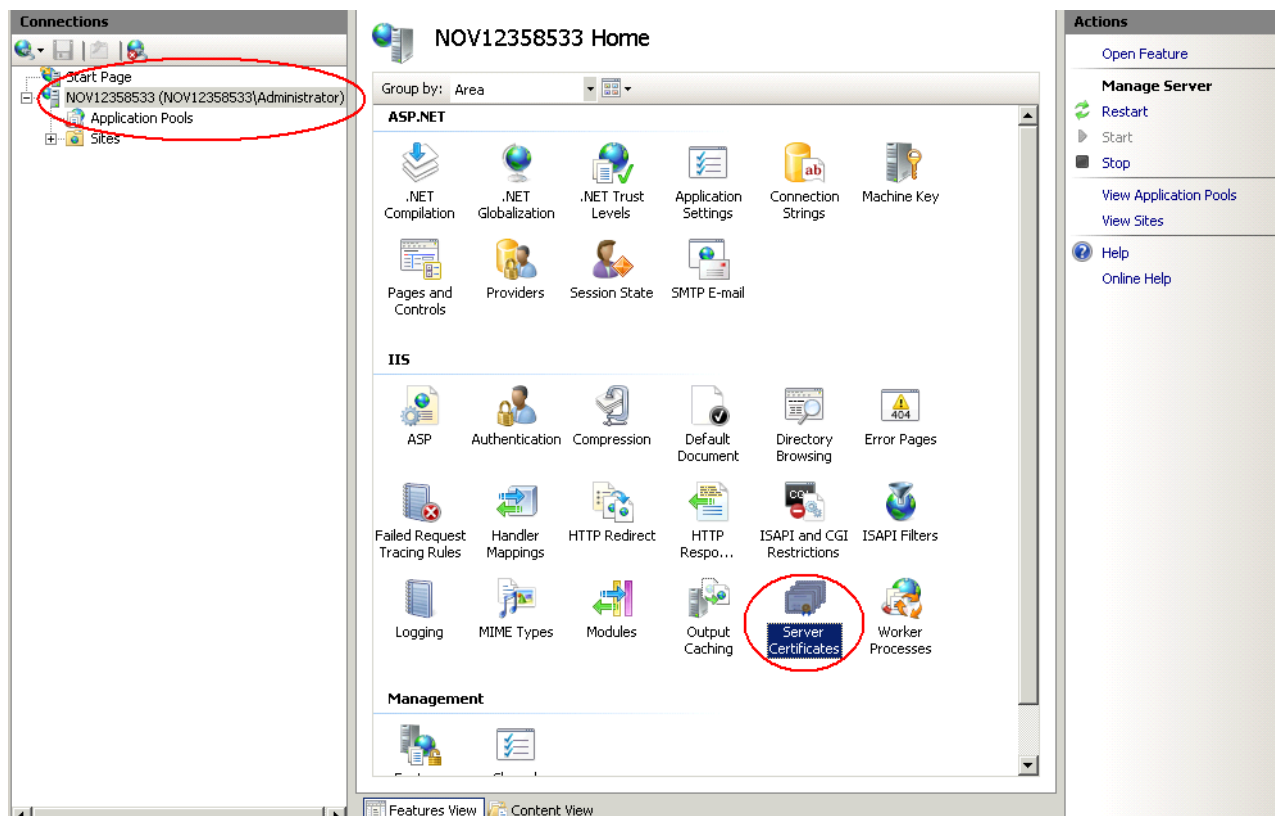


7. ワーカープロセスのリサイクル(分ごと)を増やします(推奨値は 17400)。
8. IIS を停止します。[コマンド iisreset /stop を使用します]
9. 次のフォルダを削除します。
C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319\Temporary ASP.NET Files\autodeskdm_services
10. IIS を起動します。[コマンド iisreset /start を使用します]

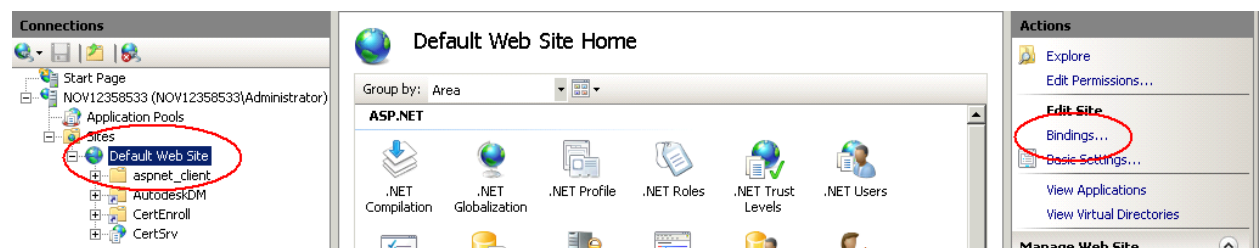
IIS 7.0にSSL 認証を設定 サーバーを設定します。

注意: 下記の手順はインターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャを使用して、SSL アクセスを要求するようにIIS7を設定します。

1. Vault Server をホストしているコンピュータに、ローカルあるいはドメイン管理者としてログインします。
2. スタートメニューから、コントロールパネルを選択します。
3. 管理ツールをダブルクリックし、さらにインターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャをダブルクリックします。
4. 左側ペインにリストされた IIS サーバーを選択し、[サーバー証明書]をダブルクリックします。



5. 証明機関からすでに証明書を取得済みである場合、[サーバー証明書] ウィンドウの右側にある[操作]ペインを使って証明書をインポートできます。また[操作]ペインから自己署名証明書を作成することもできます。
注意: このドキュメントではこれ以降、AutodeskDM という名前の自己署名証明書を用いて説明します。
6. [自己署名入り証明書の作成]を選択します。証明書に AutodeskDM と名前を付けて OK をクリックします。
7. [サイト]ツリーを展開し、AutodeskDM 仮想ディレクトリをホストしている Web サイトを選択します。下図では、Web サイトは **Default Web Site**(既定の Web サイト)です。**Default Web Site** を選択し、[操作]ペインから[バインド]をクリックします。



8. [追加]をクリックして https にタイプを変更し SSL 証明書を AutodeskDM (あるいはインポートした証明書)に変更します。OK をクリックします。
9. すべての非 SSL のボールド通信を制限したい場合、http バインドをクリックして削除を選択します。
10. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャを閉じます。

IIS ワーカー プロセス と アプリケーション プールを再設定

IIS 6

1. [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開き、アカウント作成する組織単位 (OU) を選択します。

2. **AutodeskID** という名前のアカウントを作成します。このアカウントに、ドメイン パスワード ポリシーに適合するパスワードを設定します。
3. **AutodeskID** アカウントを DMMachine の **IIS_WPG** ローカル グループのメンバにします。
4. AutodeskID アカウントに、DMMachine の **%SystemRoot%\Temp** ディレクトリに対する[フル コントロール]アクセス許可を設定します。
5. AutodeskID アカウントに、リモート ファイル保管場所ディレクトリ **\\FSMachine\VaultData** に対する[フル コントロール]アクセス許可を設定します。
6. インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャを起動し、**AutodeskAppPL** という名前の新しいアプリケーション プールを作成します。
7. [AutodeskAppPL]アプリケーション プールの[プロパティ]を開き、**[識別]**タブに移動します。
8. ドメイン アカウント AutodeskID を追加してパスワードを設定し、変更を適用します。
9. [既定の Web サイト]を展開し、AutodeskDM\Services 仮想ディレクトリに移動します。
10. [Services]ディレクトリを右クリックし、**[ディレクトリ]**タブに移動します。
11. [アプリケーション プール]プルダウン リストから、新しく作成した**[AutodeskAppPL]**アプリケーション プールを選択します。
12. 変更を適用し、[既定の Web サイト]の[プロパティ]を閉じます。
13. IIS マネージャを終了します。
14. コマンド プロンプトを開き、**IISRESET** と入力します。
15. ボールトに新しいファイルを追加し、プロパティがインデックスされることを確認します。

IIS 7

1. [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開き、アカウントを作成する組織単位(OU)を選択します。
2. **AutodeskID** という名前のアカウントを作成します。このアカウントに、ドメイン パスワード ポリシーに適合するパスワードを設定します。
3. **AutodeskID** アカウントを DMMachine の **IIS_WPG** ローカル グループのメンバにします。
4. **AutodeskID** アカウントに、DMMachine の **%SystemRoot%\Temp** ディレクトリに対する[フル コントロール]アクセス許可を設定します。
5. AutodeskID アカウントに、リモート ファイル保管場所ディレクトリ **\\FSMachine\VaultData** に対する[フル コントロール]アクセス許可を設定します。
6. [アプリケーション プール]を右クリックし、[アプリケーション プールの追加]を選択します。
7. [アプリケーション プールの追加]ダイアログ ボックスで、アプリケーション プールに **AutodeskAppPL** という名前を付け、その他のオプションは既定値のままにします。
8. [アプリケーション プール]リストから新しく作成したアプリケーション プールを探し、これを右クリックします。
9. [詳細設定]を選択します。
10. [プロセス モデル]で[ID]を選択し、この ID を先ほど作成したドメイン アカウント (AutodeskID)を使用するよう変更します。
11. [既定の Web サイト]を展開し、AutodeskDM\Services 仮想ディレクトリに移動します。

12. [Services]ディレクトリを右クリックして[アプリケーションの管理]、[詳細設定]の順に選択します。
13. [アプリケーション プール]から、新しく作成した[AutodeskAppPL]アプリケーション プールを選択します。
14. 変更を適用し、[既定の Web サイト]の[プロパティ]を閉じます。
15. IIS マネージャを終了します。
16. コマンド プロンプトを開き、IISRESET と入力します。
17. ボールトに新しいファイルを追加し、プロパティがインデックスされることを確認します。

SQL

Autodesk Vault Server 2013 の前に Microsoft SQL Server をインストール

Vault Server 2013 のインストールでは、AutodeskVault という名前の既存の SQL インスタンスが検出されない場合、自動的に Microsoft SQL 2008 SP2 x86 Express Edition (ビルド番号 10.0.4000.0) をインストールします。Vault Server 2013 でフル バージョンの SQL を実行する予定である場合には、Vault Server 2013 のインストールの前か後にこれをインストールすることができます。

注: このインストール プロセスでは、サーバーを何度か再起動する必要があります。あらかじめ、必要な再起動を実行できることを確認しておいてください。また、SQL の sa アカウントにカスタム パスワードを使用する場合は、Autodesk Vault Server のインストール時にこのパスワードを指定する必要があります。詳細は、このドキュメントの「Autodesk Vault Server 2013 のインストールをカスタマイズする」セクションを参照してください。

Microsoft SQL 2008

1. インストール メニューから[SQL Server の新規 スタンドアロンインストールまたは既存のインストールへの機能の追加]を選択して、Microsoft SQL 2008 Server のインストール プロセスを開始します。
2. インストール プロセスによって必須コンポーネントがインストールされ、インストール前チェックが実行されます。エラーが報告された場合はメモしておき、それらのエラーを修正してから次の手順に進んでください。
3. [機能の選択]ウィンドウで、[データベース エンジン サービス]を選択します。ここでインストール場所を指定することもできます。
4. [インスタンスの構成]ウィンドウで[名前付きインスタンス]を選択し、**AutodeskVault** と名前を入力します。

Instance Configuration
Specify the name and instance ID for the SQL Server instance.

Setup Support Rules
Feature Selection
Instance Configuration
Disk Space Requirements
Server Configuration
Database Engine Configuration
Error and Usage Reporting
Installation Rules
Ready to Install
Installation Progress
Complete

☐ Default instance
☒ Named instance: AutodeskVault

Instance ID: AutodeskVault

Instance root directory: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\

SQL Server directory: C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL10.AutodeskVault

Installed instances:

Instance	Features	Edition	Version	Instance ID
----------	----------	---------	---------	-------------

< Back Next > Cancel Help

注: このインスタンス名を使わずに SQL をインストールした場合、Autodesk Vault

Server のインストール時に Microsoft SQL Express 2008 SP2 を使用する Autodesk Vault Server 用の SQL Server インスタンスが **AutodeskVault** という名前で作成されます。**AutodeskVault** 以外の名前の SQL インスタンスは認識されません。

5. [サーバーの構成]ウィンドウで[サービス アカウント]タブを選択します。
 - a. SQL Server データベース エンジンの **NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE** アカウントを指定します。ローカル システム アカウントを使用することもできます。ただし、バックアップと復元をリモートで行う予定の場合は、ドメイン ユーザー アカウントを指定する必要があります。[スタートアップの種類]を[自動]に設定します。

Server Configuration
Specify the configuration.

Setup Support Rules
Feature Selection
Instance Configuration
Disk Space Requirements
Server Configuration
Database Engine Configuration
Error and Usage Reporting
Installation Rules
Ready to Install
Installation Progress
Complete

Service Accounts Collation

Microsoft recommends that you use a separate account for each SQL Server service.

Service	Account Name	Password	Startup Type
SQL Server Database Engine	NT AUTHORITY\NETW...		Automatic

Use the same account for all SQL Server services

These services will be configured automatically where possible to use a low privilege account. On some older Windows versions the user will need to specify a low privilege account. For more information, click Help.

Service	Account Name	Password	Startup Type
SQL Server Browser	NT AUTHORITY\LOCA...		Disabled

< Back Next > Cancel Help

6. [データベース エンジンの構成]ウィンドウで[アカウントの準備]タブを選択します。
 - a. **[混合モード]**認証を選択して sa パスワードを設定します。既定値のインストールで sa パスワードに使用される既定値のパスワードは **AutodeskVault@26200** です。
 - b. ローカル管理者アカウント(または希望のアカウント)を SQL Server 管理者として追加します。**このダイアログに入力された Windows ユーザーだけが、SQL Server にログインしたときにフル権限を与られます。その他の Windows ログインはすべてゲスト アカウントとして扱われます。**

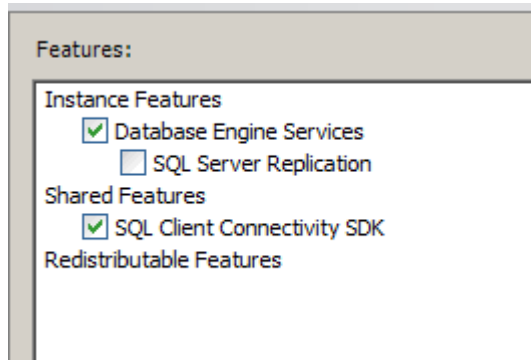
注: 別の sa パスワードを使用する場合は、**[独自の SQL 認証を使用する]**オプション(このドキュメントの「Autodesk Vault Server 2013 をインストールする」セクションを参照)を使用する必要があります。

7. 選択したインストール オプションを確認して**インストール**します。処理が終了したら、インストーラを閉じることができます。
8. 必要に応じてMicrosoft 社のWebサイトから、最新の SQL Server 2008 サービスパックとホットフィックスをダウンロードしインストールします。SP 2 が正しくインストールされた場合、データベース エンジンのバージョンは、10.0.4#### となります。加えて、SQL 2008 SP3も適用できます。

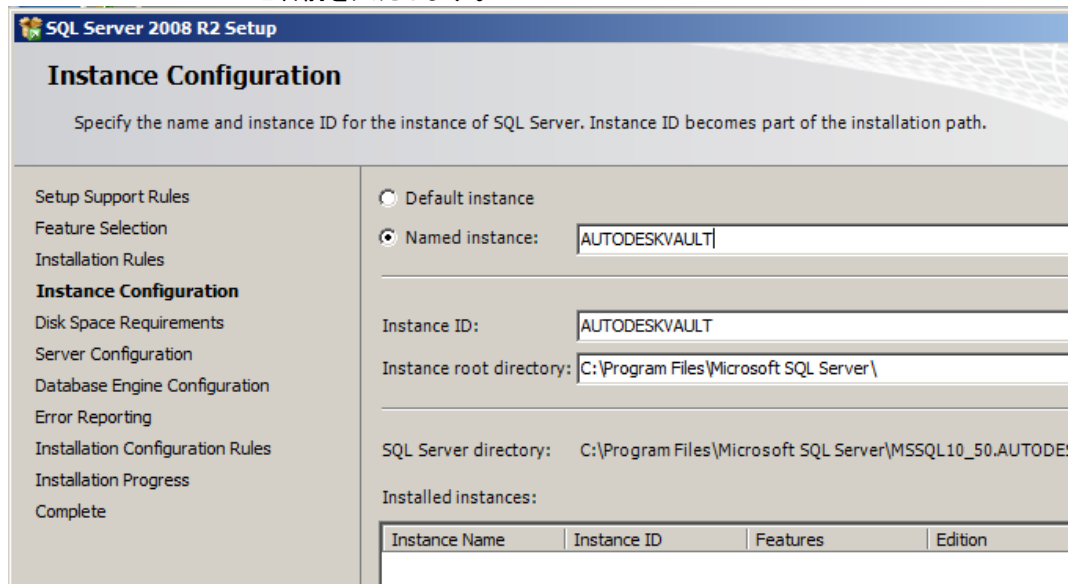
Microsoft SQL 2008 R2 (Express Edition)

1. インストール メニューから[新規インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します。]を選択して、Microsoft SQL 2008 R2 Server Express Edition のインストール プロセスを開始します。
2. インストール プロセスによって必須コンポーネントがインストールされ、インストール前チェックが実行されます。エラーが報告された場合はメモしておき、それらのエラーを修正してから次の手順に進みます。
3. データベースエンジンサービスと環境により必要となる追加のロールを選択します。接続ワークグループ環境では SQL Server レプリケーション が必須となりますが、SQL のExpress editionではサポートされませんので、選択の必要はありません。SQL クラ

イアント接続 SDK は選択したままにします。

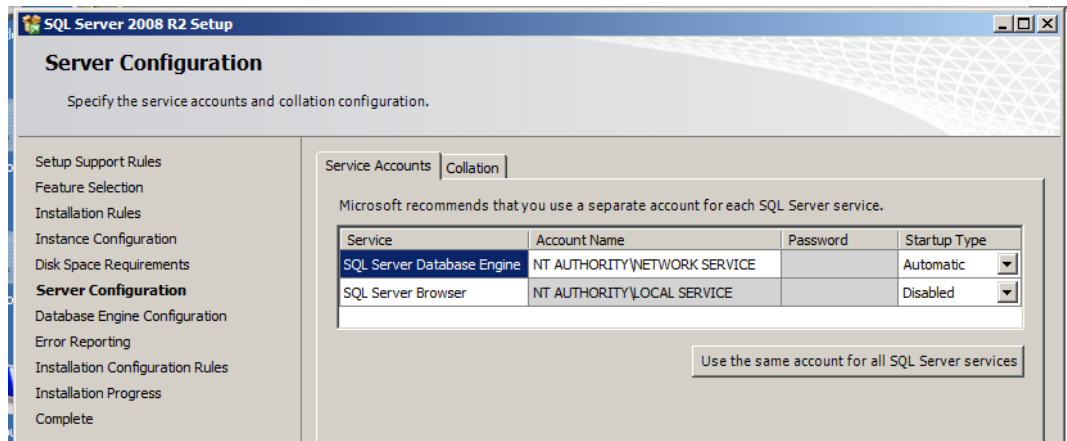


4. [インスタンスの構成]ウィンドウで[名前付きインスタンス]を選択し、**AUTODESKVAULT** と名前を入力します。

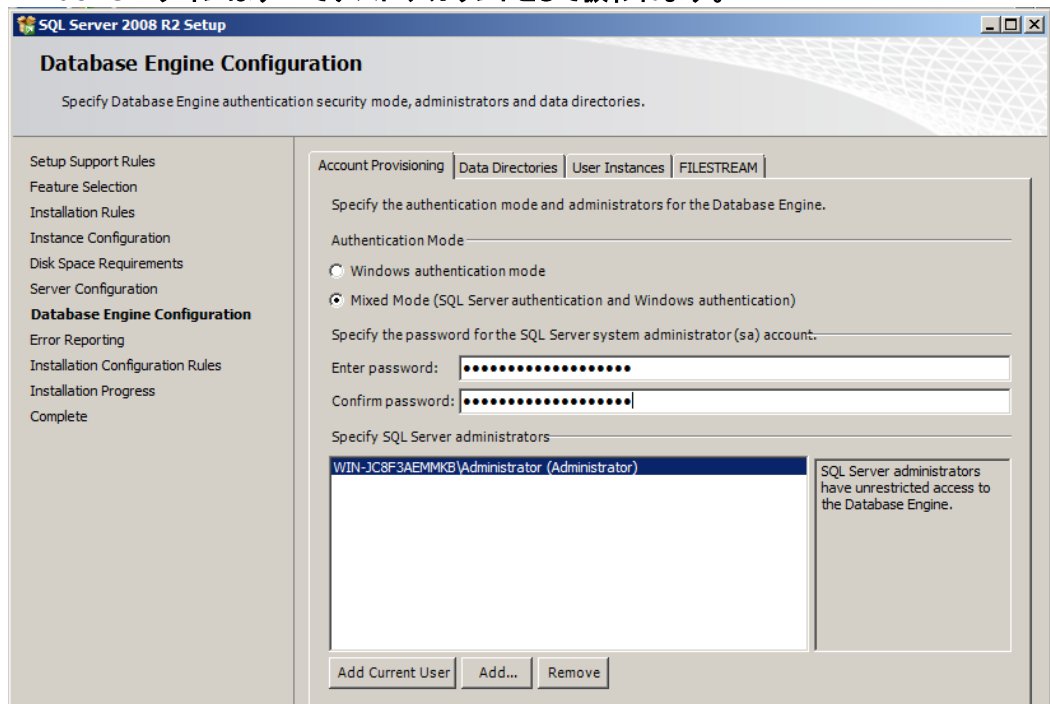


注: このインスタンス名を使わずに SQL をインストールした場合、Autodesk Vault Server のインストール時に 32ビットバージョンのMicrosoft SQL Express 2008 SP2 を使用する Autodesk Vault Server 用の SQL Server インスタンスが **AUTODESKVAULT** という名前で作成されます。AUTODESKVAULT 以外の名前の SQL インスタンスはいずれも**認識されません**。

5. [サーバーの構成]ウィンドウで[サービス アカウント]タブを選択します。
 - a. SQL Server Database Engine に **NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE** アカウントを指定します。ローカル システム アカウントを使用することもできます。ただし、バックアップと復元をリモートで行う予定の場合は、ドメイン ユーザー アカウントを指定する必要があります。[スタートアップの種類]を[自動]に設定します。



6. [データベース エンジンの構成]ウィンドウで[アカウントの準備]タブを選択します。
 - a. **[混合モード]**認証を選択して sa パスワードを設定します。既定値のインストールで sa パスワードに使用される既定値のパスワードは **AutodeskVault@26200** です。
 - b. ローカル管理者アカウント(または希望のアカウント)を SQL Server 管理者として追加します。このダイアログに入力された Windows ユーザーだけが、SQL Server にログインしたときにフル権限を与えられます。その他の Windows ログインはすべてゲスト アカウントとして扱われます。

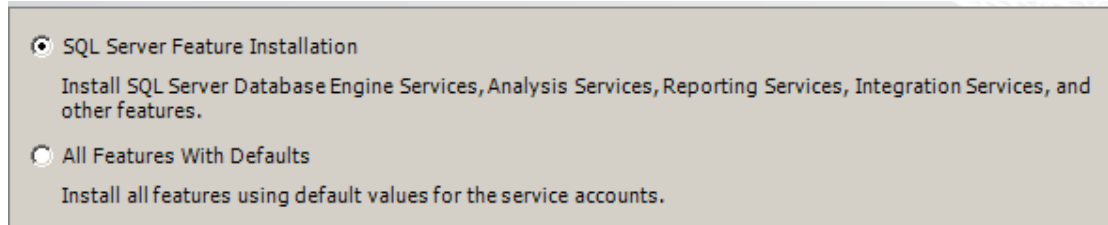


注: 別の sa パスワードを使用する場合は、**[独自の SQL 認証を使用する]**オプション(このドキュメントの「Autodesk Vault Server 2013 をインストールする」セクションを参照)を使用する必要があります。

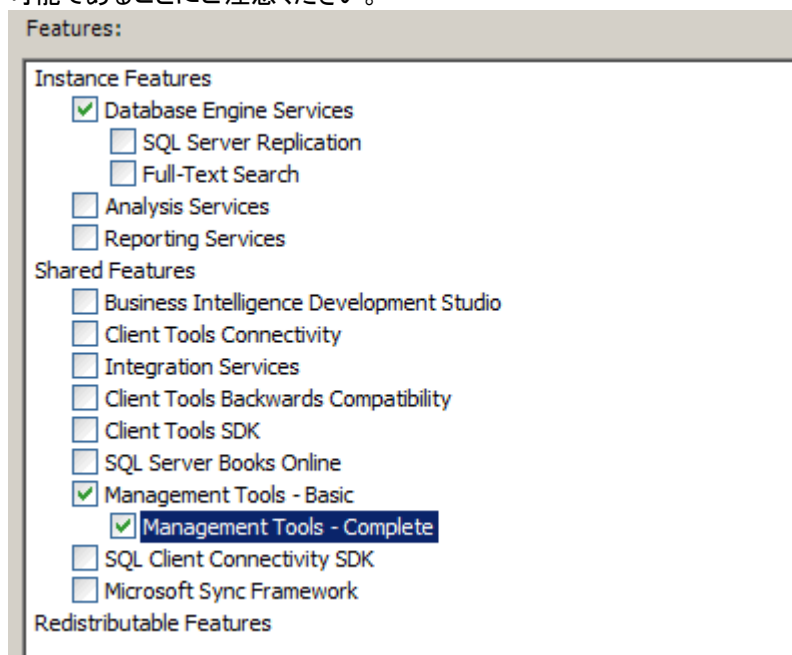
7. Microsoft 社のWebサイトから、最新の SQL Server 2008 サービスパックとホットフィックスをダウンロードしインストールします。
8. 必要に応じてマイクロソフトのWebサイトからSQL 2008 R2 SP1をダウンロードしインストールしてください。

Microsoft SQL 2008 R2 (Standard もしくは Enterprise)

1. インストール メニューから[新規インストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加します。]を選択して、Microsoft SQL 2008 R2 Server のインストール プロセスを開始します。
2. インストール プロセスによって必須コンポーネントがインストールされ、インストール前チェックが実行されます。エラーが報告された場合はメモしておき、それらのエラーを修正してから次の手順に進みます。
3. [セットアップ ロール]ウィンドウで、[SQL Server 機能のインストール]を選択します。



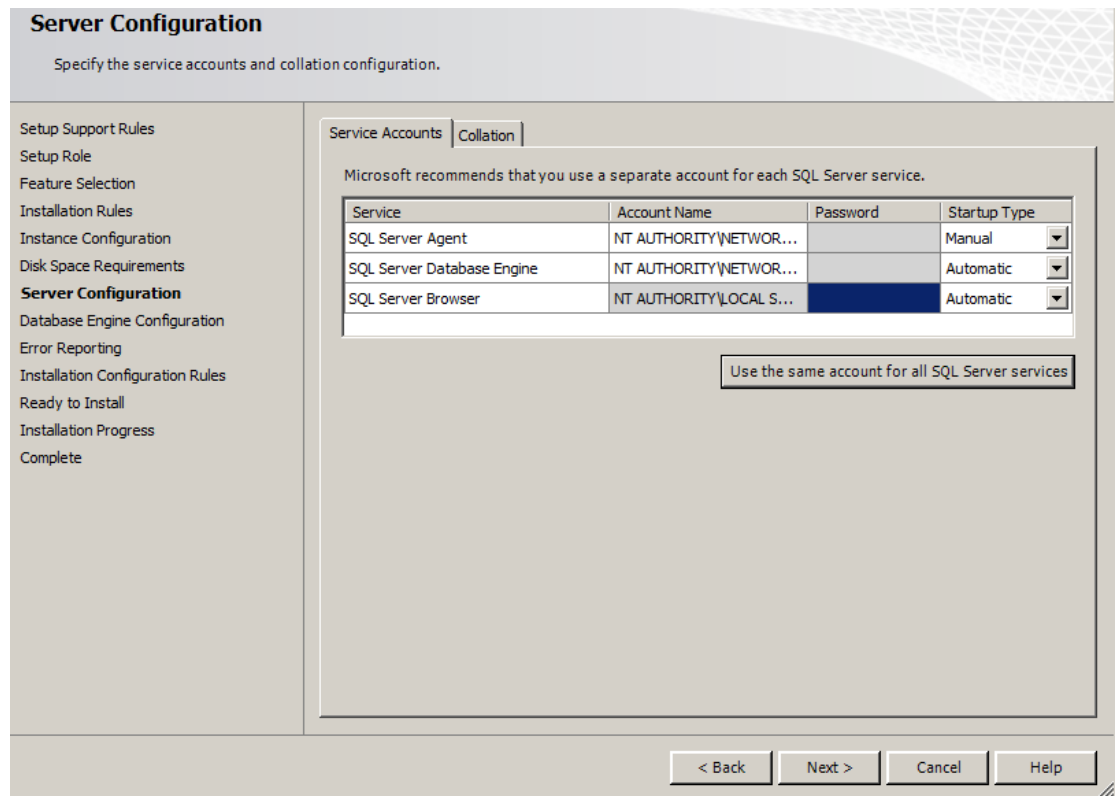
4. [データベース エンジン サービス]と環境に必要な追加のロールをすべて選択します。接続ワークグループ環境では[SQL Server レプリケーション]が必須であり、[管理ツール]が推奨されます。Expressバージョンでは、マネージメントツール 基本のみが利用可能であることにご注意ください。



5. [インスタンスの構成] ウィンドウで[名前付きインスタンス]を選択し、AUTODESKVAULT と名前を入力します。

注: このインスタンス名を使わずに SQL をインストールした場合、Autodesk Vault Server のインストール時に 32ビットバージョンのMicrosoft SQL Express 2008 SP2 を使用する Autodesk Vault Server 用の SQL Server インスタンスが **AUTODESKVAULT** という名前で作成されます。AUTODESKVAULT 以外の名前の SQL インスタンスはいずれも認識されません。

6. [サーバーの構成]ウィンドウで[サービス アカウント]タブを選択します。
 - a. SQL Server Database Engine に **NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE** アカウントを指定します。ローカル システム アカウントを使用することもできます。ただし、バックアップと復元をリモートで行う予定の場合は、ドメイン ユーザー アカウントを指定する必要があります。[スタートアップの種類]を[自動]に設定します。



7. [データベース エンジンの構成]ウィンドウで[アカウントの準備]タブを選択します。
 - a. **[混合モード]**認証を選択して sa パスワードを設定します。既定値のインストールで sa パスワードに使用される既定値のパスワードは **AutodeskVault@26200** です。
 - b. ローカル管理者アカウント(または希望のアカウント)を SQL Server 管理者として追加します。**このダイアログに入力された Windows ユーザーだけが、SQL Server にログインしたときにフル権限を与られます。その他の Windows ログインはすべてゲスト アカウントとして扱われます。**

注: 別の sa パスワードを使用する場合は、**[独自の SQL 認証を使用する]**オプション(このドキュメントの「Autodesk Vault Server 2013 をインストールする」セクションを参照)を使用する必要があります。

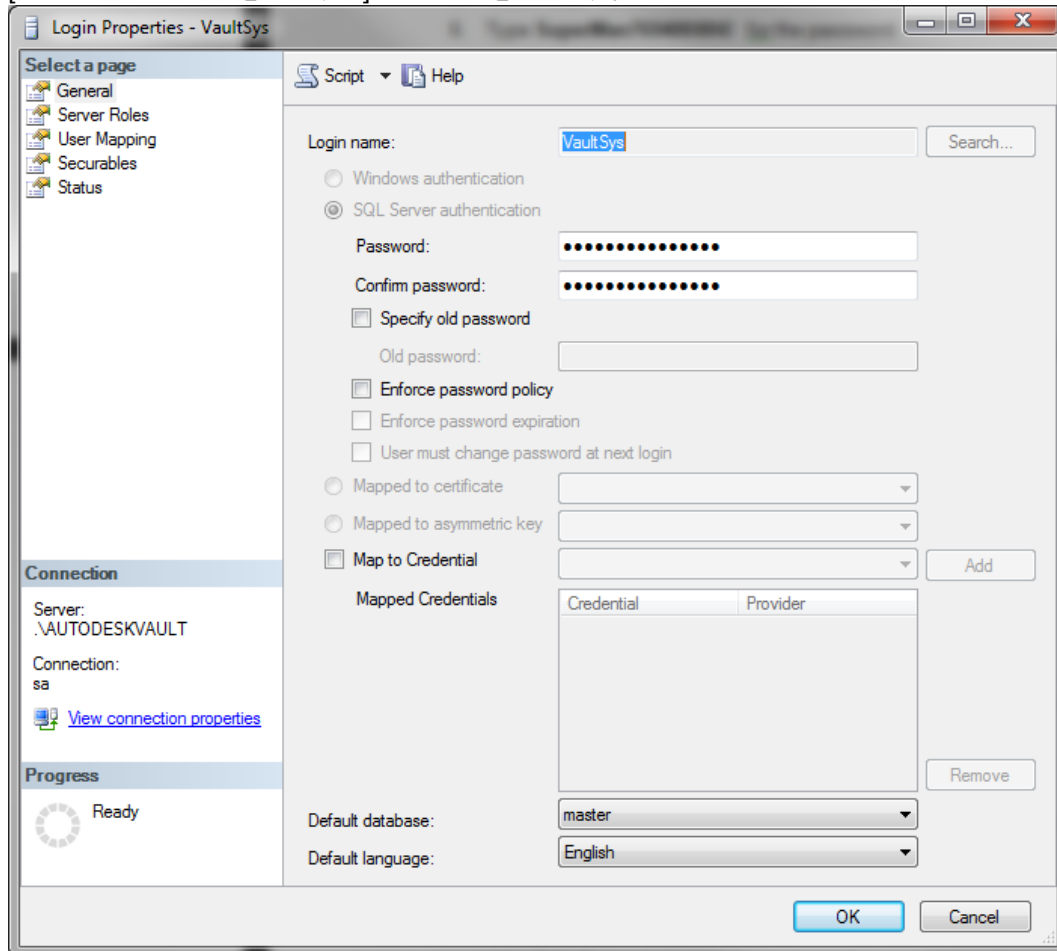
8. Microsoft 社のWebサイトから、最新の SQL Server 2008 サービスパックとホットフィックスをダウンロードしインストールします。
9. 必要に応じてマイクロソフトのWebサイトからSQL 2008 R2 SP1をダウンロードしインストールしてください。

SQL ログインを再設定

ドメイン パスワード ポリシーを使用しない場合は、このセクションは省略して次に進んでください。ドメインにパスワード ポリシーが設定されている場合は、そのポリシーに適合するパスワードを使用する必要があります。インストールが完了したら、sa パスワードを「AutodeskVault@26200」に戻し、**[パスワード ポリシーを適用する]**チェック ボックスをオフにしてください。また、「VaultSys」と「ADMS-<コンピュータ名>」という名前の SQL ログイン アカウントを作成する必要があります。このアカウントを作成するには、以下の手順に従います。

1. **Microsoft SQL Server Management Studio** を起動します。
2. **[セキュリティ]**、**[ログイン]**の順にフォルダを展開します。
3. **[ログイン]**フォルダを右クリックし、**[新しいログイン]**を選択します。
4. ログイン名に「VaultSys」と入力します。
5. **[SQL Server 認証]** をオンにします。
6. パスワードとして「SuperMan769400006!」と入力します。

7. [パスワード ポリシーを適用する] のチェックを外します。



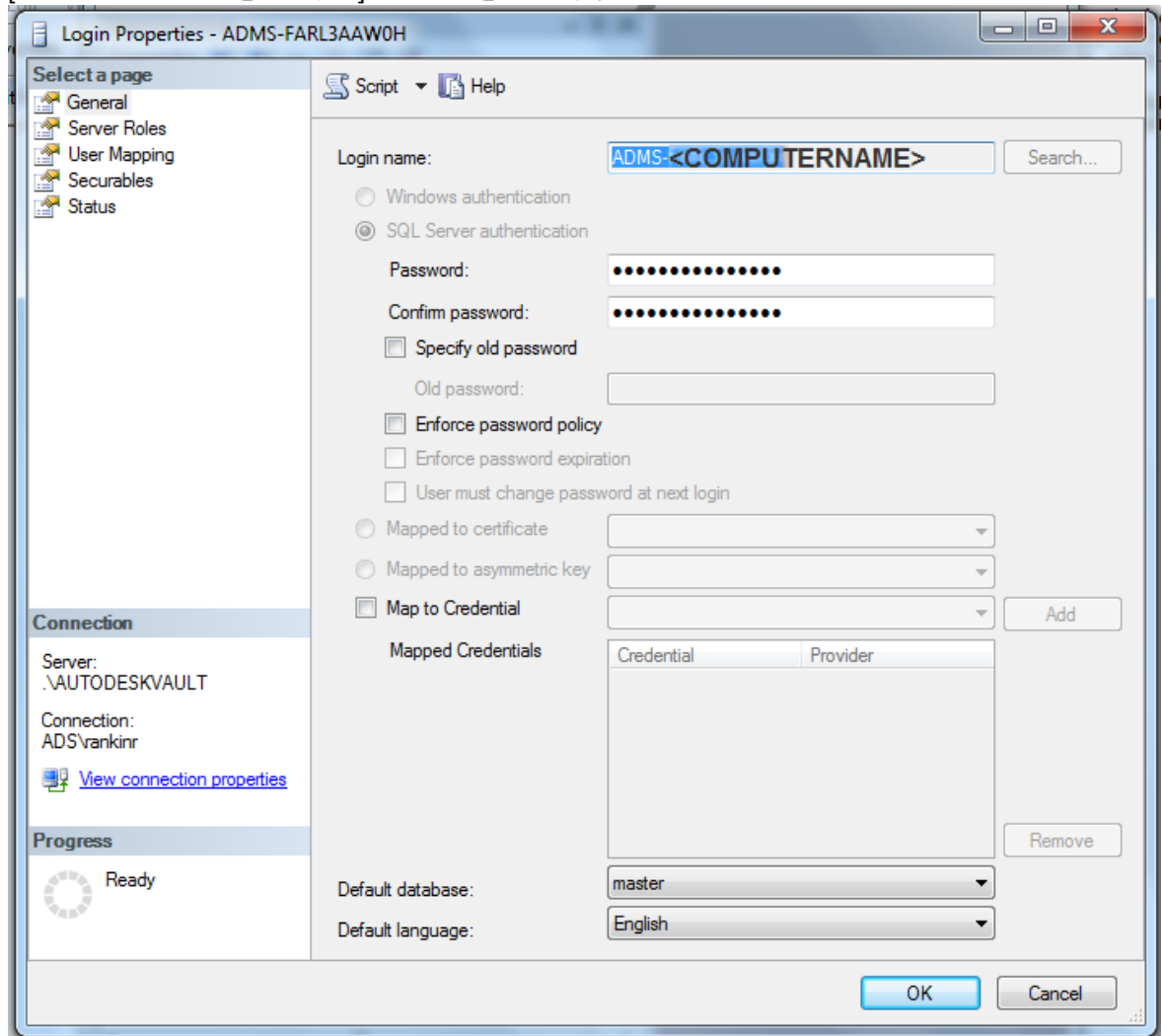
8. [サーバー ロール]ページを選択します。
9. 次の各ロールの横にあるチェック ボックスをオンにします。
- dbcreator
 - processadmin
 - setupadmin

10. [OK]をクリックするとアカウントが作成されます。

ADMS-<COMPUTERNAME>アカウントを作成するには、

11. **Microsoft SQL Server Management Studio** を起動します。
12. [セキュリティ]、[ログイン]の順にフォルダを展開します。
13. [ログイン]フォルダを右クリックし、[新しいログイン]を選択します。
14. ログイン名に **ADMS-<COMPUTERNAME>**と入力します。(＜COMPUTERNAME＞は NT コンピュータ名を意味します) 例えば、コンピュータ名が MAINSERVER であれば、ログイン名が= ADMS-MAINSERVER となります。
15. **SQL Server 認証**を選択します。
16. パスワードとして**WeakerMan769400006!**を入力します。

17. [パスワード ポリシーを適用する]のチェックを外します。



18. サーバーロール ページを選択します。

- [public] のみが選択されていることを確認します。

19. OK をクリックしてアカウントを作成します。

ドメイン コントローラに SQL Server をインストール

以下の Microsoft 社の記事を参照してください。

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143506.aspx>:

ドメイン コントローラに SQL Server をインストールする

Microsoft は、セキュリティ上の理由から、SQL Server 2008 / 2008 R2 をドメイン コントローラにインストールしないよう推奨しています。SQL Server セットアップでは、ドメイン コントローラとなっているコンピュータ上へのインストールは禁止されていませんが、以下の制限が適用されます。

- Windows Server 2003 では、ドメイン アカウントまたはローカル システム アカウントで SQL Server サービスを実行できます。
- ドメイン コントローラ上では、ローカル サービス アカウントまたはネットワーク サービス アカウントを使用して SQL Server サービスを実行することはできません。
- SQL Server をコンピュータにインストールした後、そのコンピュータをドメイン メンバからドメイン コントローラに変更することはできません。ホスト コンピュータをドメイン コントローラに変更するには、SQL Server をアンインストールする必要があります。
- SQL Server をコンピュータにインストールした後、そのコンピュータをドメイン コントローラからドメイン メンバに変更することはできません。ホスト コンピュータをドメイン メンバに変更するには、SQL Server をアンインストールする必要があります。
- クラスタ ノードがドメイン コントローラである場合、SQL Server フェイルオーバー クラスタ インスタンスはサポートされません。
- 読み取り専用のドメイン コントローラ上では、SQL Server セットアップでセキュリティ グループを作成したり、SQL Server サービス アカウントを準備したりすることができません。このシナリオでは、セットアップが失敗します。

AUTODESKVAULT SQL インスタンスのアップグレード

フル バージョンの Microsoft SQL Server にアップグレードする際は、サーバーおよびクライアント システムへのアクセスを許可し、繰り返し行うシステムの再起動を実行する適切な IT スタッフとエンジニアリング スタッフが必要になります。また、本番環境のアップグレードを行う前に、テスト環境でアップグレードを実行してみることをお勧めします。なお、アップグレードが正常に行われたかどうかを確認するためには、クライアント側のシステムも必要です。

サーバーのアップグレードは、Autodesk Vault Server のインストール後も任意のタイミングで実行できます。

アップグレード中は、SQL Server インスタンスと Autodesk Vault サーバー サービスは停止します。その際、ポータルにログインしているユーザーは自動的に切断されます。すべてのユーザーが Autodesk Vault Server からログアウトしていることを確認してください。アップグレードを実行しても、チェックアウトされているファイルの状態には影響はありません。また、データベース構造やファイルの状態、親子関係も変わりません。

SQL Server をアップグレードする前に、Autodesk Vault Server Console アプリケーションでバックアップを実行してください。データのバックアップについての詳細は、Autodesk Vault Server Console のヘルプを参照してください。

****注意****下記のステップのいずれかを実行する前に、現在インストールされているSQL Server のバージョンおよびエディションと32ビットか64ビットかを確認してください。“[How to determine the version and edition of SQL Server and its components](#)” (MS Article ID 321185)をご参照ください。

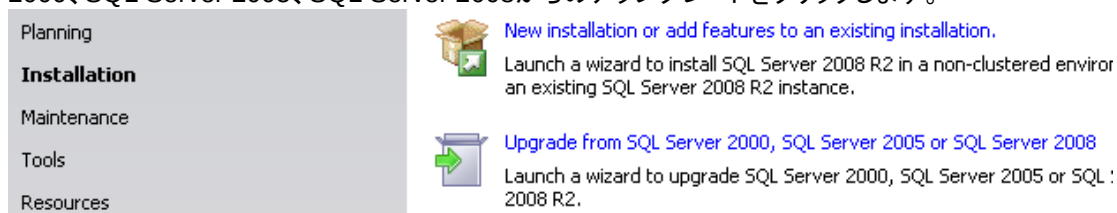
AUTODESKVAULT SQLインスタンスを事前インストールしていなければ、インストールしたオペレーティングシステムが32ビット、64ビットにかかわらずAutodesk Vault Server 2013 は32

ビットバージョンのMicrosoft SQL Server 2008 (SP2) Express Edition - 10.0.4000.0をインストールします。64ビットのオペレーティングシステムに、64ビットバージョンのSQLが必要であれば、Vault Server 2013のインストールの前に64ビットのSQL Serverをインストールする必要があります。

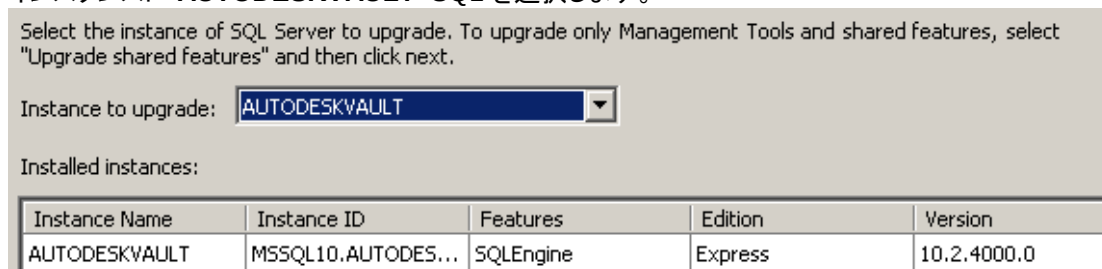
マイクロソフトは、SQL Serverのクロスプラットフォーム (32 ⇄ 64) のインプレイス アップグレードをサポートしていません。詳しくはマイクロソフト“[Version and Edition Upgrades](#)”をご覧ください。

MS SQL Express 2008 SP2 を SQL Express 2008 R2 にアップグレード

1. SQL Express 2008 R2 インストール メディアから**セットアップ**を起動します。[インストール]オプションを選択し、**アップグレード**用のウィザードを開始します。SQL Server 2000、SQL Server 2005、SQL Server 2008からのアップグレードをクリックします。



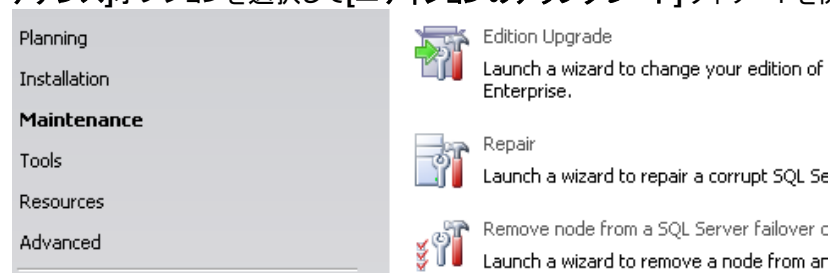
2. インスタンスに **AUTODESKVAULT** SQL を選択します。



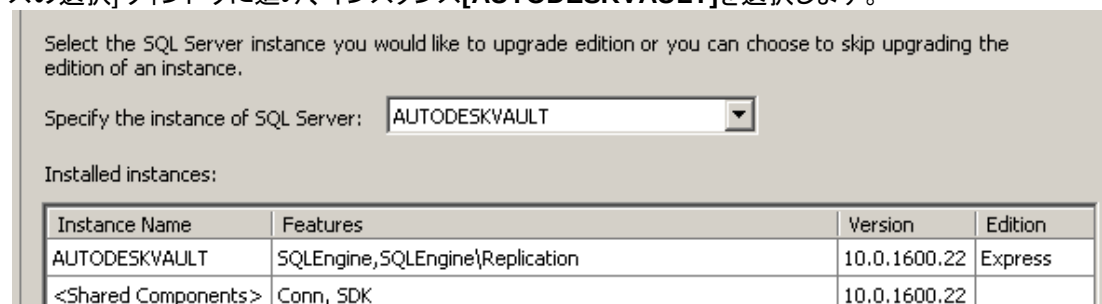
3. ウィザードに従ってインスタンスのアップグレードを実行します。

MS SQL Express 2008 SP2 をフル バージョンの MS SQL 2008 にアップグレード

4. フル バージョンの SQL 2008 インストール メディアから**セットアップ**を起動します。[メンテナンス]オプションを選択して[エディションのアップグレード]ウィザードを開始します。



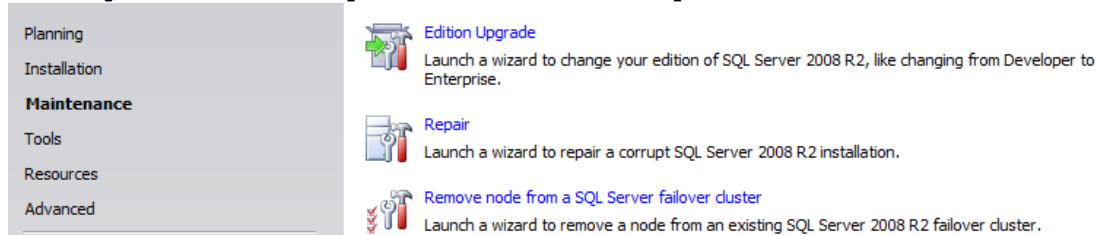
5. フル バージョンの SQL 2008 のバージョンとプロダクト キーを確認したら、[インスタンスの選択]ウィンドウに進み、インスタンス[AUTODESKVAULT]を選択します。



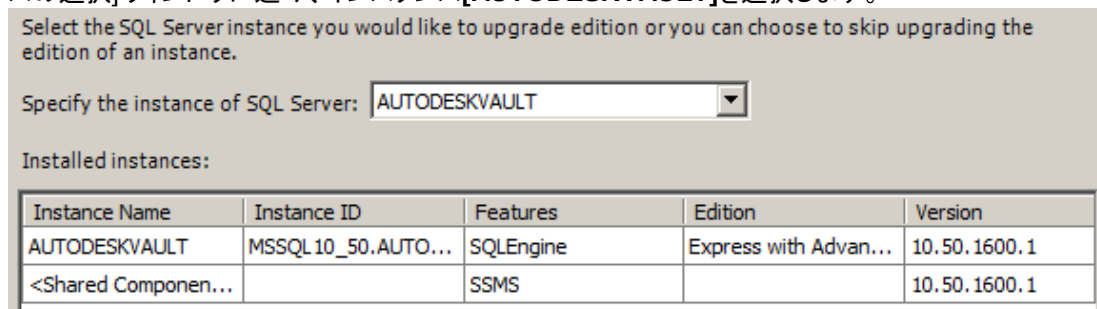
6. インスタンスをアップグレードします。インスタンスのアップグレードが終了したら、SQL Management Studio をインストールできます。これには[インストール]オプションに戻って、[新規インストールの作成または既存のインストールへの機能の追加]ウィザードを開始します。
7. 必要であれば SQL 2008 SP2 をダウンロードして適用します。

MS SQL Express 2008 R2 をフル バージョンの MS SQL 2008 R2 にアップグレード

1. フル バージョンの SQL 2008 インストール メディアからセットアップを起動します。[メンテナンス]オプションを選択して[エディションのアップグレード]ウィザードを開始します。



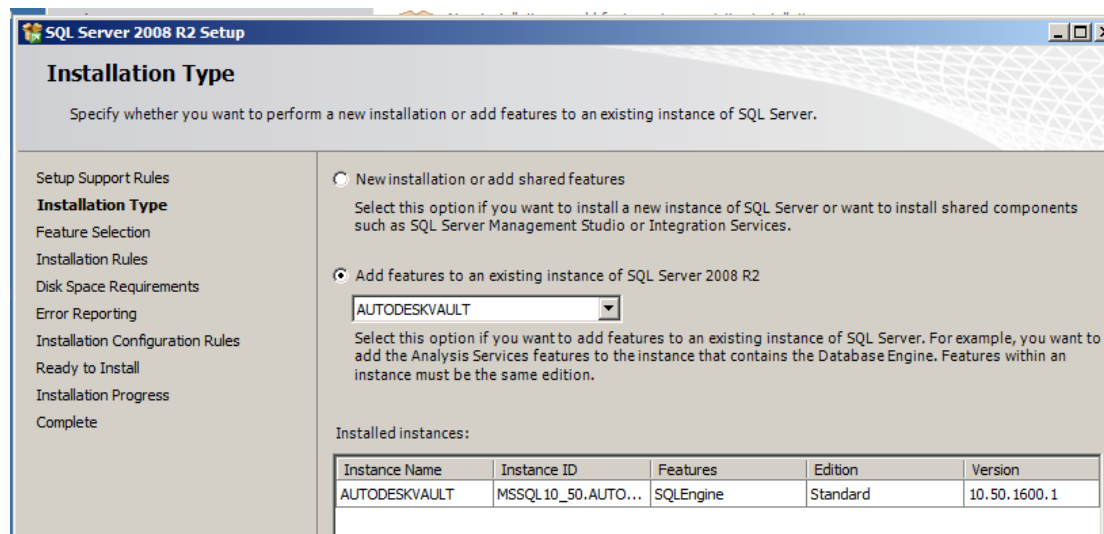
2. フル バージョンの SQL 2008 のバージョンとプロダクト キーを確認したら、[インスタンスの選択]ウィンドウに進み、インスタンス[AUTODESKVAULT]を選択します。



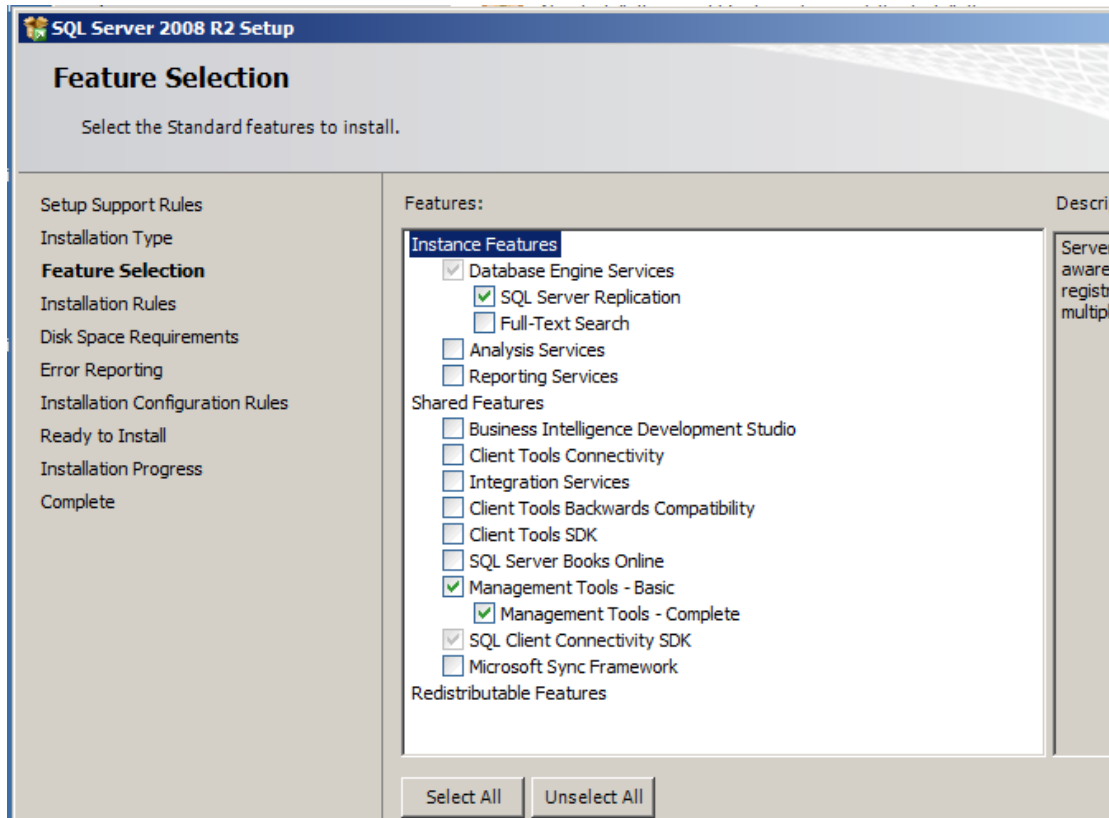
SQLスタンダードあるいはエンタープライズにアップグレード後

レプリケーションなどの、Autodesk VaultがサポートしているSQLのより高度な機能を実装したい場合、インストールから、[SQL Serverの新規スタンドアローン インストールあるいは既存のインストールへの機能の追加]をクリックします。

インストールの種類のページで、[既存のSQL Server 2008 R2インスタンスに機能を追加する]のAUTODESKVAULTインスタンス が選択されていることを確認します。



機能の選択ページで、必要とする機能をチェックします。



上図の例では、**SQL Server レプリケーション** (Vaultで接続ワークグループの実行を必要)を選択。合わせて**管理ツール-完全** の選択を推奨します。

SQL Server Agent はスタートアップ時に自動で起動する設定が必要となります。ファイル名を指定して実行にて、**Services.msc** と入力してください。サービス コンソールで、**SQL Server Agent (AUTODESKVAULT)**の場所を見つけ、**プロパティ**を右クリックし、**全般**タブで、**スタートアップの種類を自動**に変更し、**適用**をクリックします。ログオン タブに切り替え、**Network Service** が選択されていることを確認し、**全般**タブに戻り、**開始** をクリックします。

SQL のカスタム TCP/IP ポートの割り当て

このセクションでは、SQL を非標準の TCP/IP ポートに設定する手順の概要を説明します。

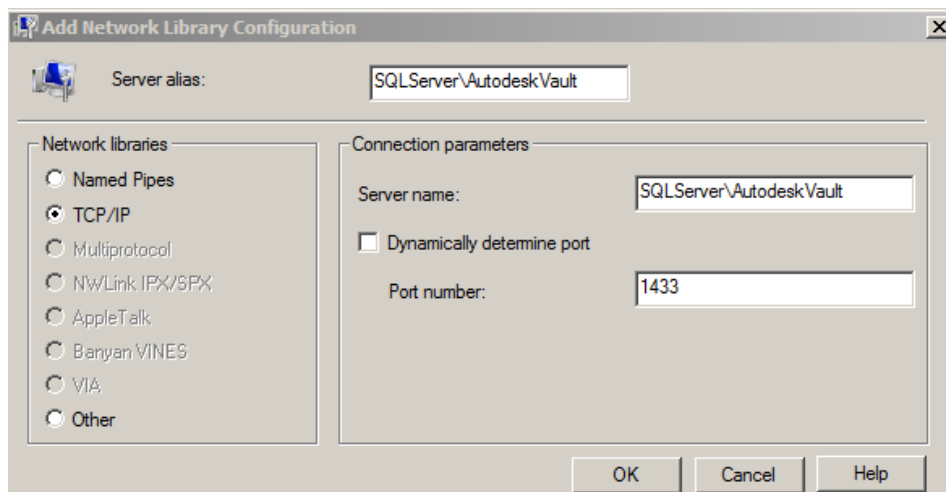
SQL Server 2008 (およびR2)

1. 『アドバンス コンフィグレーション ガイド』に従って、フル バージョンの SQL Server 2008 をインストールします。
2. SQL がインストールされているサーバーで、**[SQL Server 構成マネージャ]**を起動します。
3. **[SQL Server 構成マネージャ]**ダイアログ ボックスで、**[SQL Server ネットワークの構成]**を展開し、**[AUTODESKVAULT のプロトコル]**を選択します。
4. 右側のペインで、**[TCP/IP]**プロトコルをダブルクリックしてプロパティを開きます。
5. **[TCP/IP プロパティ]**ダイアログ ボックスで**[プロトコル]**タブを選択し、**[有効]**プロパティを**[はい]**に変更します。
6. **[IP アドレス]**タブを選択します。
7. ダイアログ ボックスの下部までスクロール ダウンして**[IP All]**セクションを表示します。

8. [TCP ポート]フィールドを目的のポートに変更します。
9. 変更を適用し、**[OK]**を選択して[TCP/IP プロパティ]ダイアログ ボックスを閉じます。
10. [SQL Server 構成マネージャ]ダイアログ ボックスで、左側のペインの**[SQL Server サービス]**セクションを選択します。
11. 右側のペインの**[SQL Server (AutodeskVault)]**を選択し、これを右クリックして**[再開]**を選択します。

Autodesk Vault Server

1. C:\Windows\System32\clconfig を実行し、**[SQL Server クライアント ネットワーク ユーティリティ]**を起動します。
2. **[SQL Server クライアント ネットワーク ユーティリティ]**ダイアログ ボックスで**[別名]**タブを選択します。
3. **[別名]**タブで**[追加]**ボタンを選択します。
4. **[ネットワーク ライブラリ設定の追加]**ダイアログ ボックスで、[ネットワーク ライブラリ]の下**[TCP/IP]**を選択します。
5. **[サーバー別名]**ボックスに SQL がインストールされているサーバーの名前とインスタンス名を入力します。
6. **[ポートを動的に決定する]**チェック ボックスを**オフ**にし、上の手順 8 で設定したポート番号を入力します。



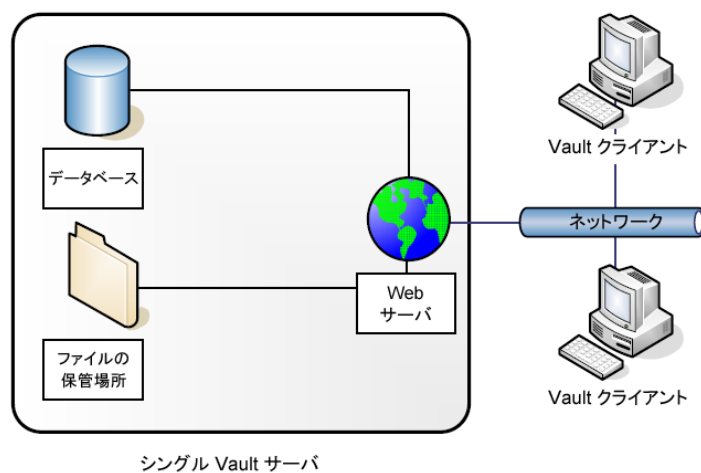
7. **[OK]**をクリックして設定を適用します。
8. Autodesk Vault Server のインストールを開始します。

リモートのファイル保管場所の管理

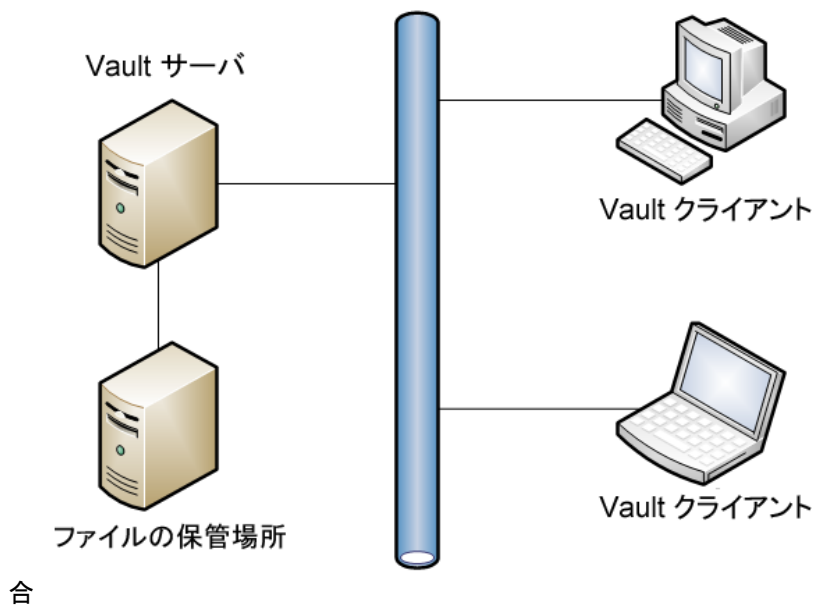
ここでは、ファイル保管場所をマッピング済みのドライブやリモートの共有場所に移動する方法を説明します。

ボールドのファイル保管場所は、次の 2 通りの基本構成がサポートされています。

1. ファイル保管場所が Autodesk Vault Server 上に存在する場合



2. ファイル保管場所が、共有フォルダを持つリモート ファイル サーバー上に存在する場合



リモート ファイル サーバーは、ファイル保管場所のホストとしてだけでなく、ボールド データのバックアップや復元にも使用できます。このセクションでは、リモート ファイル保管場所の設定に必要な手順について説明します。

ファイル保管場所をマッピング済みドライブまたはリモート共有に移動

ここでは分かりやすいように、Autodesk Vault Server をホストするコンピュータを **DMMachine**、リモート ファイル保管場所をホストするコンピュータを **FSMachine** と呼ぶことにします。ドメイン名は **MyDomain** です。また、Autodesk Vault Server がインストールされているサーバーはドメイン コントローラではなくメンバ サーバーとします。

Autodesk Vault Server がドメイン コントローラにインストールされている場合は、AutodeskVault ドメイン アカウントを使用し、「ポールト ファイル保管場所を移動する」セクションに進んでください。

新しいドメイン ユーザー アカウントを作成します

1. [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開き、アカウントを作成する組織単位(OU)を選択します。
2. **AutodeskRemote** という名前のアカウントを作成します。ドメイン パスワード ポリシーに適合するパスワードを設定し、パスワードの有効期限を**無期限**にします。

リモート共有を作成します

1. FSMachine で Windows エクスプローラを開き、**VaultData** という名前のディレクトリを作成します。
2. フォルダを右クリックし、**[プロパティ]**を選択します。
3. **[共有]**タブに移動し、VaultData という名前の新しい共有を作成します。
4. **[アクセス許可]** をクリックし、**[AutodeskRemote]**、**[Network Service]**、**[System]** ユーザーを**[フル コントロール]**に設定します。
5. **[共有]**ダイアログ ボックスの**[アクセス許可]**で**[OK]**をクリックします。
6. **[セキュリティ]**タブに移動し、**AutodeskRemote** アカウントを追加して**[フル コントロール]**アクセス許可を設定します。

Autodesk Vault Server Console で新しいアカウントを設定します

1. DMMachine で Autodesk Vault Server Console を開きます。
2. **[ツール]**、**[管理]**の順にクリックします。
3. **[詳細設定]**タブで、**[高度な構成設定]**の横にある**[設定]**ボタンを選択します。

4. [詳細設定]ダイアログ ボックスで、[ユーザー名]を **MyDomain\AutodeskRemote** に変更し、対応するパスワードを入力します。

Advanced Settings

Impersonation

User Name: MyDomain\AutodeskRemote

Password: *****

Connection

Connection Timeout: 1000 Seconds

Share Path

Current Path:

New Path: [] []

Log File Configuration

Limit the number of log files before they are recycled. Value must be between 6 and 99.

☐ Maximum number of console logs: 6

☐ Maximum number of server logs: 6

☐ Maximum number of email logs: 6

Server Task History

Number of days to retain history: 14

Value must be between 0 and 99.

Reset Defaults

OK Cancel Help

5. 変更を適用し、[OK]をクリックします。

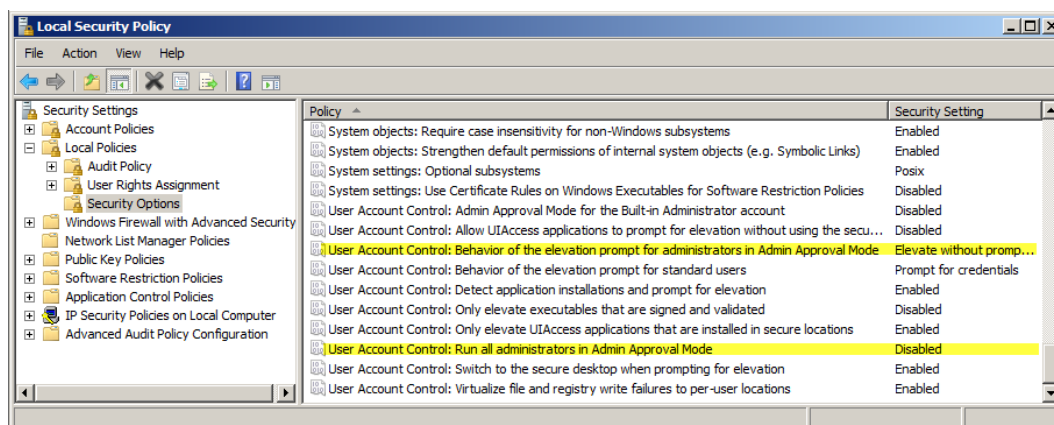
ボールド ファイル保管場所を移動

1. 別の場所に移動するボールドを選択します。
2. [アクション]、[ファイル保管場所を移動]の順にクリックします。
3. [新しいファイル保管場所]フィールドを \\FSMachine\VaultData に設定します。
4. [OK]をクリックします。

ユーザー アカウント制御

ADMS Console を使用して自動バックアップをスケジュールしたい場合は、管理者の承認を求めるメッセージなしでアプリケーションを実行できるように、Windows Vista \ 7 \ 2008 \ 2008 R2 のユーザー アカウント制御の設定を行っておく必要があります。**注:** ここで行う設定は、コンピュータ上のすべてのアプリケーションに適用されます。つまり、すべてのアプリケーションが管理者の承認を求めるメッセージなしで実行できるようになります。

1. Windows の[スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]を選択します。
2. [ファイル名を指定して実行]ダイアログ ボックスで、**secpol.msc** と入力して[OK]をクリックします。
3. ユーザー アカウント制御で、アプリケーションの実行を許可するように求められたら、[続行]をクリックします。
4. [ローカル セキュリティ設定]ダイアログ ボックスで、以下を展開します。
 - a. [セキュリティの設定]
 - [ローカル ポリシー]
 - [セキュリティ オプション]
5. [ユーザー アカウント制御: 管理者承認モードでの管理者に対する昇格時のプロンプトの動作]ポリシーを見つけて右クリックします。
 - a. [プロパティ]をクリックします。
 - [ユーザー確認を要求しないで昇格する]を選択し、[OK]をクリックします。
6. [ユーザー アカウント制御: 管理者承認モードですべての管理者を実行する]ポリシーを見つけて右クリックします。
 - a. [プロパティ]をクリックします。
7. [無効]を選択して[OK]をクリックします。



さらに、コントロール パネルから UAC の一部を無効にすることができます。

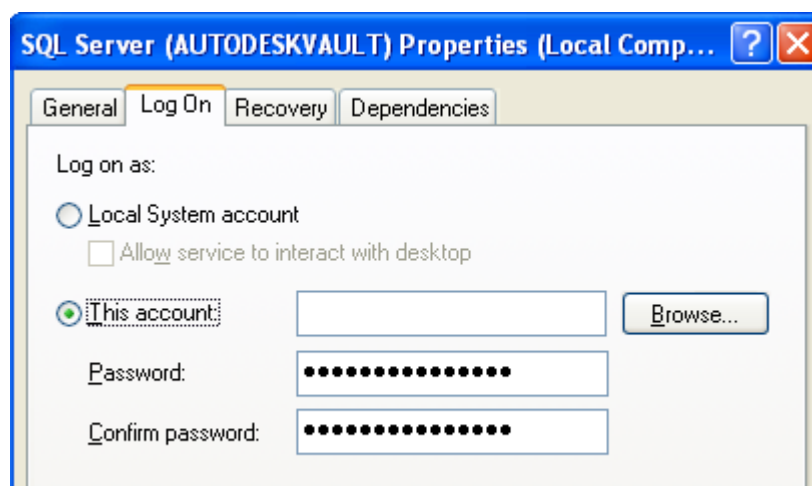
インストール後のコンフィグレーションの変更

リモートのバックアップ場所のセットアップ

ボールド データをリモート共有にバックアップしたい場合は、まず、このドキュメントの「新しいドメイン ユーザー アカウントを作成します」、「リモート共有を作成します」、および「Autodesk Vault Server Console で新しいアカウントを設定します」セクションの手順を実行してください。その後、さらに以下の手順に従って、ドメイン アカウントを使用するように SQL サービスを変更する必要があります。

注: 以下の手順で作成する新しいドメイン アカウントは、AutodeskVault インスタンスの既定値の SQL ユーザー グループに追加する必要があります。SQL 2008 で作成されるグループの名前は SQLServer2008MSSQLUser\$<computername>\$AUTODESKVAULT です。

1. [コントロール パネル]の[管理ツール]で、[サービス]アイコンをダブルクリックします。
2. [SQL Server (AUTODESKVAULT)]サービスをダブルクリックし、[ログオン]タブを選択します。



3. [アカウント]ラジオ ボタンをオンにし、ドメイン アカウントを Domain_Name\Domain_account の書式で入力して、正しいパスワードを入力します。

注: サービスのログイン資格情報を変更すると、MS SQL Server サービスを再起動するように求められます。再起動を実行して変更を適用してください。なお、SQL Server を再起動する際は、クライアントが Autodesk Vault Server を使用中でないことを確認してください。

4. 指定したアカウントに、バックアップ先の共有に対する書き込みアクセス権が設定されていることを確認します。

FQDN によるリモートからの Vault 接続の設定

完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用してインターネット経由でリモートから Vault サーバーに接続できるようにするには、以下の手順に従います。

1. ISP の現在の FQDN に対する、DNS の A (ホスト)レコードを作成します。
2. サーバーに Autodesk Vault サーバーをインストールし、正常に動作することを確認します。
3. サーバーでインターネット インフォメーション サービス マネージャを起動し、[Web サイト]フォルダを展開します。
4. AutodeskDM 仮想ディレクトリのある Web サイトを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
5. [プロパティ]ダイアログ ボックスで[Web サイト]タブを選択します。
6. [Web サイト]タブで[詳細設定]をクリックします。
7. [Web サイト ID の詳細設定]ダイアログ ボックスの[この Web サイトの複数の ID]領域で、[追加]をクリックします。
8. [Web サイトの識別の追加と編集]ダイアログ ボックスで、Web サイトに到達できる適切な IP アドレスを選択します。
9. 使用する TCP ポートを指定します。ポート 80 以外を指定した場合は、クライアントから接続する際に、FQDN の末尾に「:<ポート番号>」を追加する必要があります。
10. [ホスト ヘッダー値]に FQDN を入力します。
11. [OK]をクリックしてすべてのダイアログ ボックスを閉じます。

注: ルータやファイアウォールでさらに設定が必要な場合があります。必要な変更については、それぞれの IT 部門に問い合わせてください。

Autodesk Vault サーバーの各種タイムアウト値の変更

ボールド データベースのサイズが大きくなるにつれて、サーバーでより多くのデータを処理できるように、サーバーの各種タイムアウト値を変更する必要があります。クライアントとサーバーの機能に関するタイムアウト値を増やすには、以下の手順に従います。

1. Windows エクスプローラを開き、**C:\Program Files\Autodesk\ADMS Product 2013\Server\Web\Services** ディレクトリに移動します。
2. **Web.config** ファイルのバックアップ コピーを作成します。
3. **Web.config** ファイルをメモ帳で開き、該当する行の値を次のように変更します。

```
190 <timeouts connection="120" defaultCommand="360" longCommand="1800" />
```

注: これらの値は、ボールドのサイズやサーバマシンの処理速度によって異なります。場合によっては、さらに値を増やす必要がある場合もあります。

4. Web.config ファイルを保存します。
5. コマンド プロンプトを開き、**IISRESET** と入力します。

注: [defaultCommand]の値を 1000 より大きくする場合、[executionTimeout]の値をそれと同じかより大きく設定する必要があります。これは下記の行で見つけられます。

```
171 <httpRuntime maxRequestLength="51200" executionTimeout="1000" />
```

Autodesk Vault Server での SSL の使用

Autodesk Vault Server で SSL (Secure Socket Layer) を使用するようにセットアップするには、次の 2 段階のプロセスを行う必要があります。

1. ADMS マシンで証明書をインストールし、Web サイトの SSL 設定を行います。
2. クライアント側から SSL を使用して正常に通信できることを確認します。

ADMS サーバー マシンの設定

このドキュメントでは、IIS で SSL を設定する手順については説明しません。詳細は、次の Web リソースを参照してください。なお、使用している Windows のバージョンによっては、手順が一部異なる場合があります。

サーバー証明書の取得とインストール(IIS 6.0)

- <http://www.microsoft.com/technet/prodtechnol/WindowsServer2003/Library/IIS/9a4ae054-da27-4261-a980-4e7b92091eb7.mspx?mfr=true>

IIS 7でのサーバー証明書の設定

- [http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc732230\(v=ws.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc732230(v=ws.10).aspx)

Autodesk Vault Server をインストールした時点では、既定値では AutodeskDM 仮想ディレクトリは SSL を要求するようには設定されません。「既定の Web サイト」に証明書をインストールすると、Autodesk Vault Server へのログインに SSL を使用できるようになります。

SSL を使用せずにログインする場合は、ログイン ダイアログ ボックスの[サーバー]フィールドには localhost、127.0.0.1、マシン名、または IP アドレスを使用します。

SSL を使用してログインするには、証明書の共通名を使用する必要があります。

サーバーに Vault Web クライアントがインストールされている場合は、クライアントから Vault Web クライアントにアクセスするには Web ブラウザで `https://servername/AutodeskDM/Webclient` を指定します。

SSL アクセスを要求するAutodeskDM 仮想ディレクトリの設定

注: 以下の手順では、インターネット インフォメーション サービス マネージャを使用して、SSL アクセスを要求するように AutodeskDM 仮想ディレクトリを設定します。

1. Vault Server をホストしているコンピュータに、ローカル管理者またはドメイン管理者としてログインします。
2. Windows の[スタート]メニューから[設定]、[コントロール パネル]の順に選択します。
3. [管理ツール]をダブルクリックし、さらに[インターネット インフォメーション サービス]をダブルクリックします。
4. サーバー名の下にある[Web サイト]をクリックします。
5. [既定の Web サイト]を選択して展開します。この Web サイトに、作成した証明書がインストールされている必要があります。
6. [AutodeskDM]仮想ディレクトリを右クリックし、[プロパティ]を選択します。
7. [ディレクトリ セキュリティ]タブを選択します。
8. [セキュリティで保護された通信]領域で、[編集]をクリックします。

注: [証明書の表示]ボタンが無効になっている場合は、作成した証明書が AutodeskDM 仮想ディレクトリの親 Web サイトにまだインストールされていません。証明書をインストールしてから、次の手順に進んでください。

9. [セキュリティで保護されたチャネル(SSL)]をクリックします。これで、このディレクトリにアクセスするクライアントは HTTPS を使用しなければなりません。
10. [OK]をクリックします。
11. [OK]をクリックします。
12. [継承/優先]ダイアログ ボックスが表示されたら、[すべて選択]をクリックし、[OK]をクリックします。これで、新しいセキュリティ設定が、AutodeskDM 仮想ディレクトリのすべてのサブディレクトリに適用されます。
13. インターネット インフォメーション サービス コンソールを終了します。

クライアント コンフィグレーション

Internet Explorer 8 を使用したクライアント コンピュータの設定

SSL のクライアントとサーバー間の通信が正しくセットアップされていることを確認するには、Internet Explorer を開き、https://<サーバー名> を参照します。接続が正常に動作しない場合は、[セキュリティの警告]ダイアログ ボックスが表示されます。



There is a problem with this website's security certificate.

The security certificate presented by this website was not issued by a trusted certificate authority.

Security certificate problems may indicate an attempt to fool you or intercept any data you send to the server.

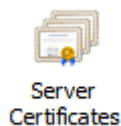
We recommend that you close this webpage and do not continue to this website.

 [Click here to close this webpage.](#)

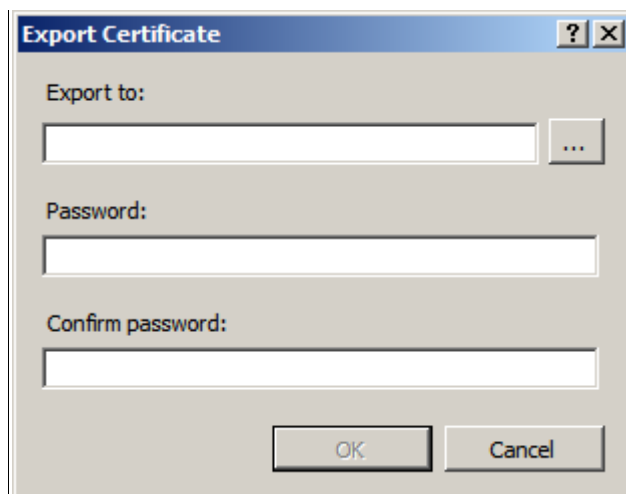
 [Continue to this website \(not recommended\).](#)

 [More information](#)

1. **[このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)]**をクリックします。
2. サーバーから証明書をエクスポートします。
 - a. [コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス マネージャ]の順に選択して、IIS マネージャを開きます。
 - b. コンピュータ名をハイライト表示します。
 - c. 右側にある[サーバー証明書]オプションを探して、これをダブルクリックします。



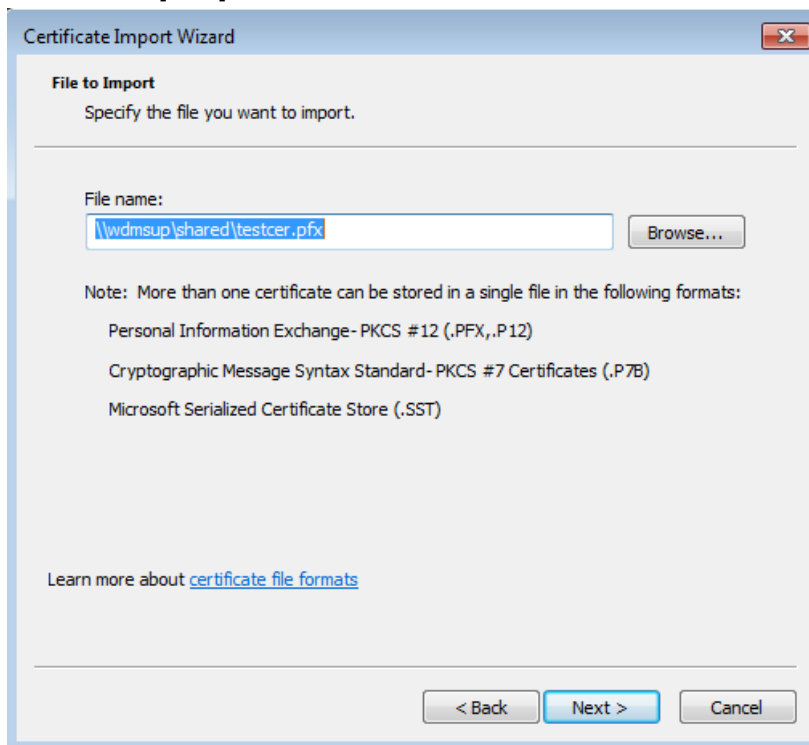
- d. リストから使用する証明書を探し、クリックしてハイライト表示します。
- e. 右クリックして[エクスポート]を選択します。
- f. 証明書を保存する共有場所を選択し、証明書のパスワードを入力します。



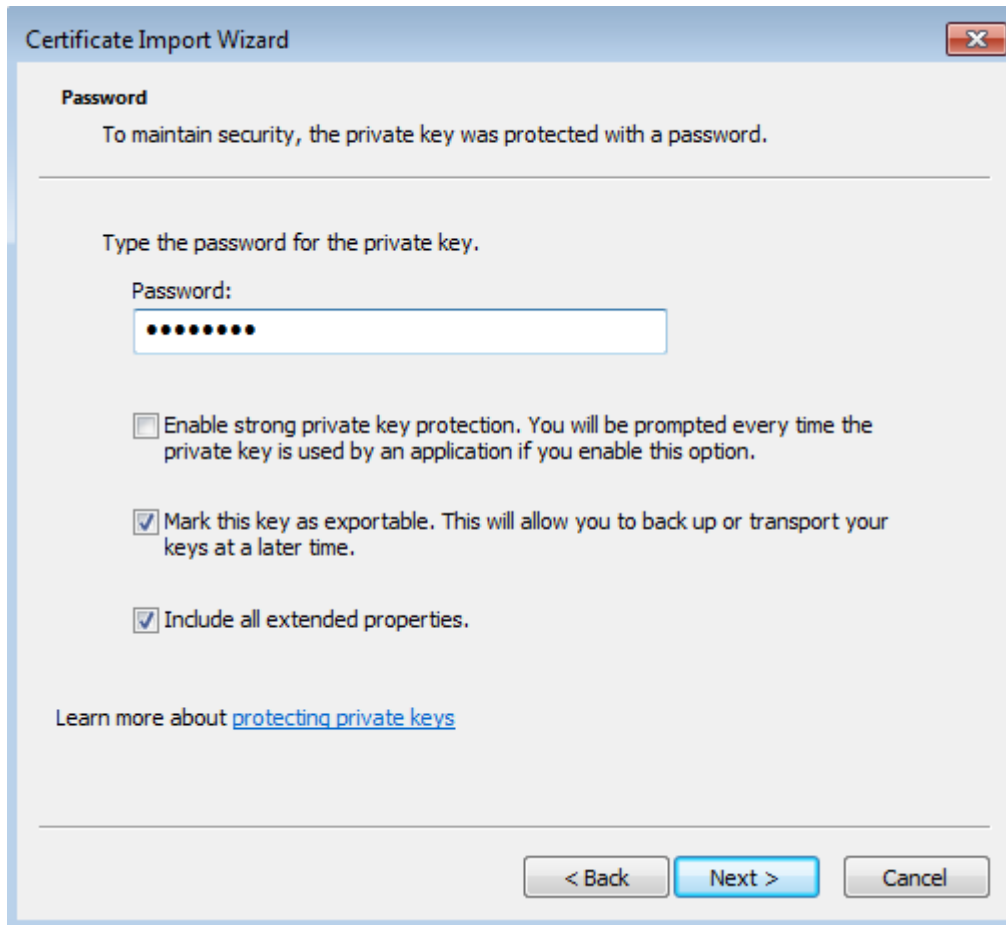
3. クライアント PC から共有を開き、新しく作成した証明書を見つけます。
4. 証明書をダブルクリックして開くと、[証明書のインポートウィザード]が起動します。



5. [インポートする証明書ファイル]画面に先ほど選択した証明書のファイルが表示されたことを確認し、[次へ]をクリックします。



6. サーバーから証明書をエクスポートするときに作成したパスワードを入力します。



7. [証明書をすべて次のストアに配置する]を選択して、[信頼されたルート証明機関]を選択します。
8. ウィザードを終了します。

クライアント アプリケーションから SSL を使用したログイン

1. [ログイン]ダイアログ ボックスで、ユーザー名、パスワード、およびデータベース名を入力します。
2. サーバー名は、サーバーのマシン名の前に https:// を指定する必要があります。以下はその例です。
 - ☐ 既定値の SSL ポート 443 を使用している場合は、「https://サーバー名」と指定します。
 - ☐ 別の SSL ポートを使用している場合は、「https://サーバー名:XXX」(XXX は SSL 通信のポート番号)と指定します。

注: SSL ログインは、サーバー マシンの証明書に依存します。証明書がマシン名に対して発行されている場合は、https://ServerName と指定する必要があります。証明書が専用の IP に対して発行されたものであれば、https://serverIPAddress と指定したときにのみ SSL ログインを実行できます。

プロキシ サーバー経由でのVault の使用

ここでは、プロキシ経由での Autodesk クライアント/サーバー データ通信を可能にするための、プロキシのセットアップについて説明します。

クライアント マシンからプロキシ サーバーを経由して Web サーバーに接続すると、Autodesk クライアントからの Autodesk Vault Server の呼び出しはすべて失敗します。Autodesk クライアント/サーバー通信が正常に実行されるようにするには、プロキシ サーバーをバイパスする必要があります。

Internet Explorer 8.x、9.xのプロキシ設定の変更

1. Internet Explorer を開きます。
2. [ツール]メニューから[インターネット オプション]を選択します。
3. [接続]タブを選択します。
4. [LAN の設定]をクリックします。
5. [設定を自動的に検出する]が選択されている場合は、チェック ボックスをオフにします。
6. [LAN にプロキシ サーバーを使用する]チェック ボックスがオンの場合、[ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない]チェック ボックスをオンします。
7. [ポート]フィールドの横にある[詳細設定]ボタンをクリックします。
8. [プロキシの設定]ダイアログ ボックスで、[例外]フィールドにVaultサーバー名と IP アドレスを追加します。
9. [OK]をクリックします。
10. [OK]をクリックします。
11. [OK]をクリックして[インターネット オプション]を閉じます。

これで、ピリオドを含まないアドレス (たとえば、http://webserver) はすべて、プロキシをバイパスして直接解決されるようになります。

ただし、Internet Explorer から所定の HTTP プロキシ サーバーに接続する場合は、HTTP プロキシ アドレスにピリオドが含まれている場合も考えられます。この場合は、ホスト名を使用するようにプロキシ サーバーを設定する必要があります。

ホスト名を使用するようにプロキシ サーバーを設定

1. Internet Explorer でプロキシ設定を変更したときの手順 1 ～ 5 を実行します。
2. [アドレス]フィールドが「http://webserver.domainname.com」または「http://10.0.0.1」になっている場合は、「http://webserver」のみに変更します。
3. [OK]をクリックして、[インターネット オプション]を閉じます。

プロキシ バイパスの高度な設定については、次のドキュメントを参照してください。

- Microsoft のサポート技術情報(文書番号 262981):「[Internet Explorer Uses Proxy Server for Local IP Address Even if the 'Bypass Proxy Server for Local Addresses' Option Is Turned On](#)」(英語)
- Microsoft のドキュメント「[Working with Proxy Servers](#)」(英語、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc939852.aspx>)

アプリケーション設定ファイルを使用してプロキシ サーバーをバイパス

既定では、HttpWebRequest は Internet Explorer 内で指定されているプロキシ設定を使用します。これらの設定は、[コントロール パネル]、[インターネット オプション]、[接続]タブ、[LAN の設定]ボタンの順に選択して変更できます。[設定を自動的に検出する]ボタンのチェックをオフにすることで、自動検出を無効にできます。ほとんどの場合、これによりクライアント アプリケーションが正しく機能できるようになります。ただし一部のケースでは、Autodesk Vault Server に接続したときに、接続が低速になったり、アプリケーションからの応答に遅延が生じたりすることがあります。アプリケーション設定ファイル(<アプリケーション名>.exe.config)には、プロキシ設定を無効にするオプションがあります。

以下の Inventor の例では、次のディレクトリに設定ファイルがあります。各クライアント アプリケーションに同じような設定ファイルがあります。ファイルのバックアップ コピーを作成してから、Notepad.exe だけを使用してファイルを編集してください。

```
"C:\Program Files\Autodesk\Inventor 2013\Bin\Inventor.exe.config"
```

ファイルに以下のコード行を追加します。

```
<system.net>  
  <defaultProxy >  
    <proxy autoDetect="False"/>  
  </defaultProxy>  
</system.net>
```

このテキストを追加したら、ファイルを保存して閉じます。この変更は次にアプリケーションを起動したときに有効になります。

Autodesk Vault Server のログ ファイル

このセクションでは、Autodesk Vault で考えられる問題のトラブルシューティングに役立つ、各種ログ ファイルやその他のファイルの格納場所について説明します。

文中には %temp% というフォルダに関する記述が出てきます。この %temp% フォルダとは、コンピュータにログインしている Windows ユーザー アカウント用の一時フォルダのことです。Windows XP、Server 2003 の場合、既定では次の場所にこのフォルダがあります。

C:\Documents and Settings\ACCOUNTNAME\Local Settings\Temp

Windows Vista、7、Server 2008、Server 2008 R2 の場合、次の場所にあります。

C:\Users\ACCOUNTNAME\AppData\Local\Temp

また、ACCOUNTNAME とは Windows のユーザー アカウント名のことです。

Vault サーバーのログ ファイル

この場所には、特に重要なログ ファイルが 2 つあります。ここでは、この 2 つのログ ファイルについて詳しく説明します。

フォルダの場所とファイル名:

Microsoft Windows XP / Server 2003 - C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Autodesk\VaultServer\FileStore

Microsoft Vista / Windows 7 / Server 2008 / Server 2008 R2 - C:\ProgramData\Autodesk\VaultServer\Filestore

Vlog-YYYYMMDD.txt

Vault Explorer またはサポートされている製品アドインから実行された[チェックイン]、[チェックアウト]、[最新バージョンを取得]、[チェックアウトを取り消し]、[高度な検索]などの操作に関連するサーバー側の問題はすべて、これらのログ ファイルに記録されます。

ADMSConsoleLog-YYYYMMDD.txt

Autodesk Vault Server Console から実行されたバックアップ、復元、再インデックス、ページなどの操作に関連するサーバー側の問題はすべて、これらのログ ファイルに記録されます。

Emaillog-YYYYMMDD.txt

サーバーから送付したメール。

Autodesk Vault Server 2013 のインストール ログ ファイル

Autodesk Vault Server のインストール中に、診断ツールによってエラーが報告されたり、インストール プロセス自体のエラーが報告されることがあります。これらのエラーはログ ファイルに記録されます。

プリチェックのログ:

%temp%\EDMlog
Prechecks.xml
Prechecks.xsl

Autodesk Vault <バージョン> 2013 クライアントのインストール ログ:

%temp%

Autodesk Vault <バージョン> 2013 Install.log

Autodesk Vault <バージョン> 2013 Setup.log

Autodesk Vault <バージョン> 2013 サーバのインストール ログ:

%temp%

Autodesk Vault <バージョン> 2013 (Server) Install.log

Autodesk Vault <バージョン> 2013 (Server) Setup.log

Autodesk サーバ診断ツールのログ ファイル

Autodesk サーバ診断ツールを実行した場合は、ログ ファイルが %temp%\EDMLog ディレクトリに格納されます。

Autodesk サーバ診断ツール:

%temp%\EDMLog

DiagTool.xml

DiagToolLog.xml

Microsoft SQL Server のログ ファイル

フォルダの場所とファイル名:

C:\Program Files\Microsoft SQL Server\%SQL_INSTANCE%\LOG

Errorlog

Errorlog.1

Errorlog.2

Errorlog.3

SQL のログには、最新の(現在の)ファイルが errorlog で、以下順に errorlog.1、errorlog.2、... という名前が付きます。

DWG 用 iFilter のログ ファイル

Vault の一部の操作(再インデックスなど)で使用する各種 iFilter にも、それぞれにログ ファイルがあります。これらのログ ファイルは、Vault Explorer でブロック属性やプロパティが正しくインデックスされないといった問題のトラブルシューティングを行う際に役立ちます。

フォルダの場所とファイル名:

サーバーのセットアップによって、iFilter ログ ファイルのある場所は異なります。

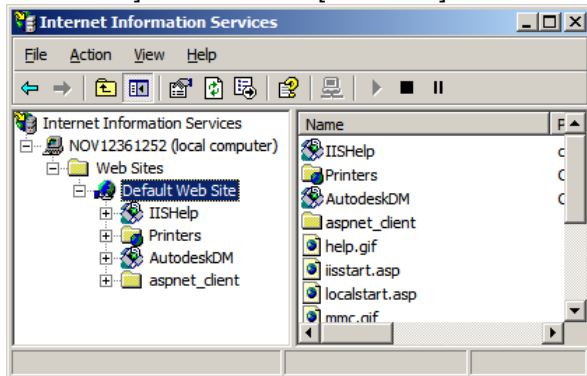
C:\Windows\Temp\ または %TEMP%

DWGFILT.*.log

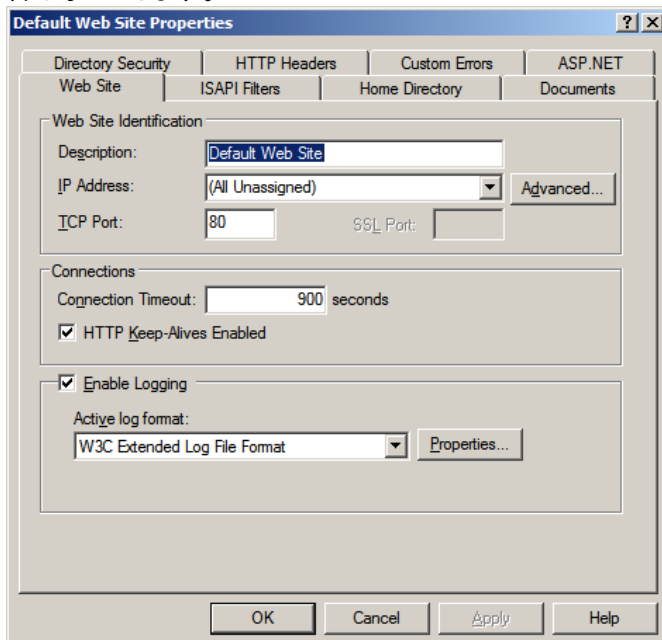
W3C 拡張形式のログをカスタマイズ (IIS 6)

W3C 拡張ログ ファイル形式は、IIS の既定のログ ファイル形式です。これは、カスタマイズ可能な ASCII によるテキストベース形式のファイルです。IIS マネージャを使用して、ログ ファイルに含めるフィールドを選択することができます。[[W3C Extended Log File Format \(英語\)](#)]

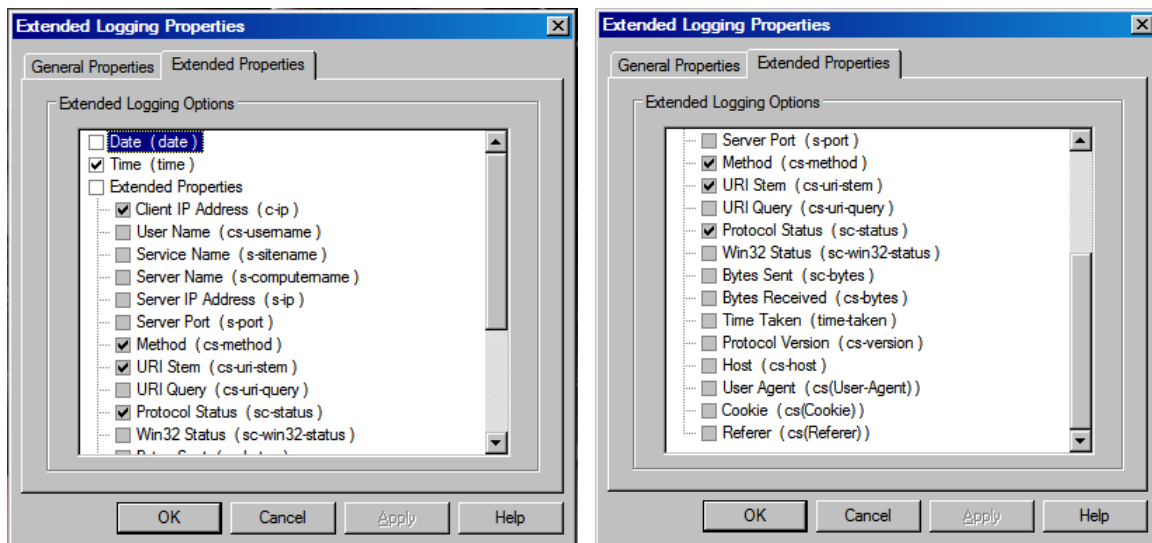
1. Windows の[スタート]メニューから[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス]の順に選択します。
2. IIS マネージャで[ローカル コンピュータ]、[Web サイト]フォルダの順に展開し、[既定の Web サイト]を右クリックして[プロパティ]を選択します。



3. [Web サイト]タブで、[ログの記録を有効にする]チェック ボックスがオフになっている場合はオンにします。



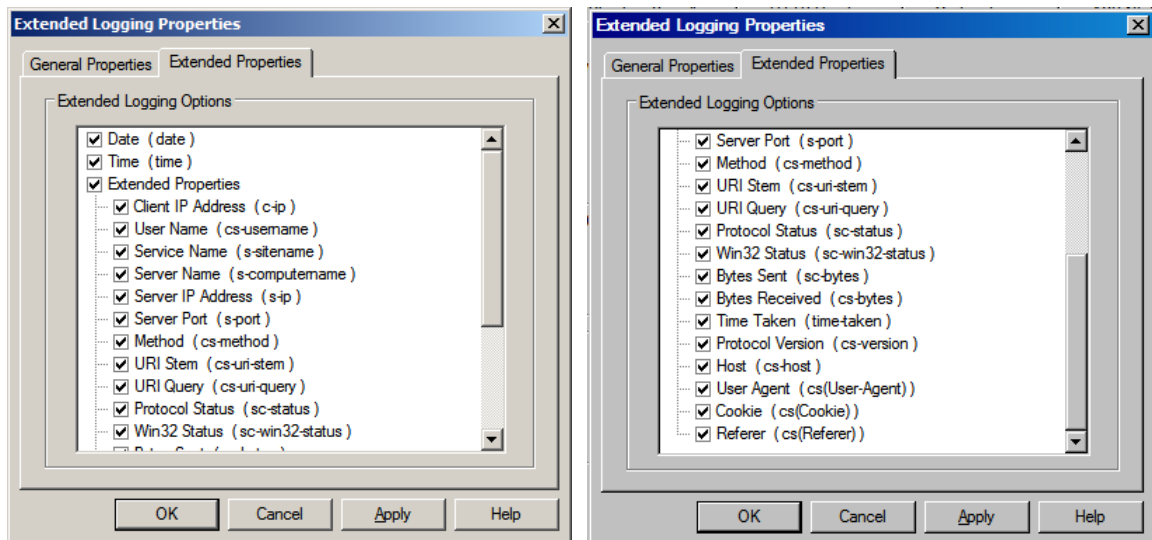
4. [Web サイト]タブで、[ログの記録を有効にする]チェック ボックスがオフになっている場合はオンにします。



(変更前)

注 後で元の設定に戻す必要が生じたときのために、拡張プロパティを変更する前に、現在選択されている W3C プロパティをメモしておくか、スナップショットを作成しておいてください。

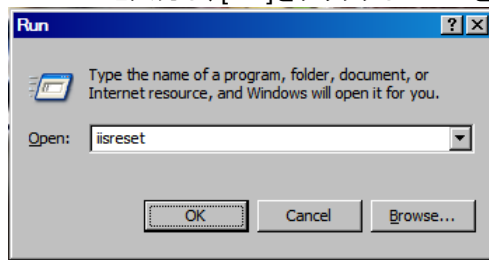
5. [詳細設定]タブ(Windows Server 2003)または[拡張プロパティ]タブ(Windows XP)で、ログのプロパティをすべて選択します。



(変更後)

6. [OK]をクリックして IIS マネージャを終了します。

7. Windows の[スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]を選択します。
iisreset と入力し、[OK]をクリックして IIS を再起動します。



8. IIS のログは次のディレクトリにあります。
 - a. C:\WINDOWS\system32\LogFiles\W3SVC1 (既定の Web サイトの通信)
 - b. C:\WINDOWS\system32\LogFiles\HTTPERR (IIS のエラー ログ)

IISのログ機能の有効化（7.0 以降）

IIS 7.0 (Windows 7, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2, Windows Vista)は仕様によりログ機能はデフォルトではインストールされません。

事前に機能がインストールされることを確認する必要があります。

[コントロールパネル] - [プログラムと機能]の“ウィンドウズの機能の有効化または無効化”をクリックします。

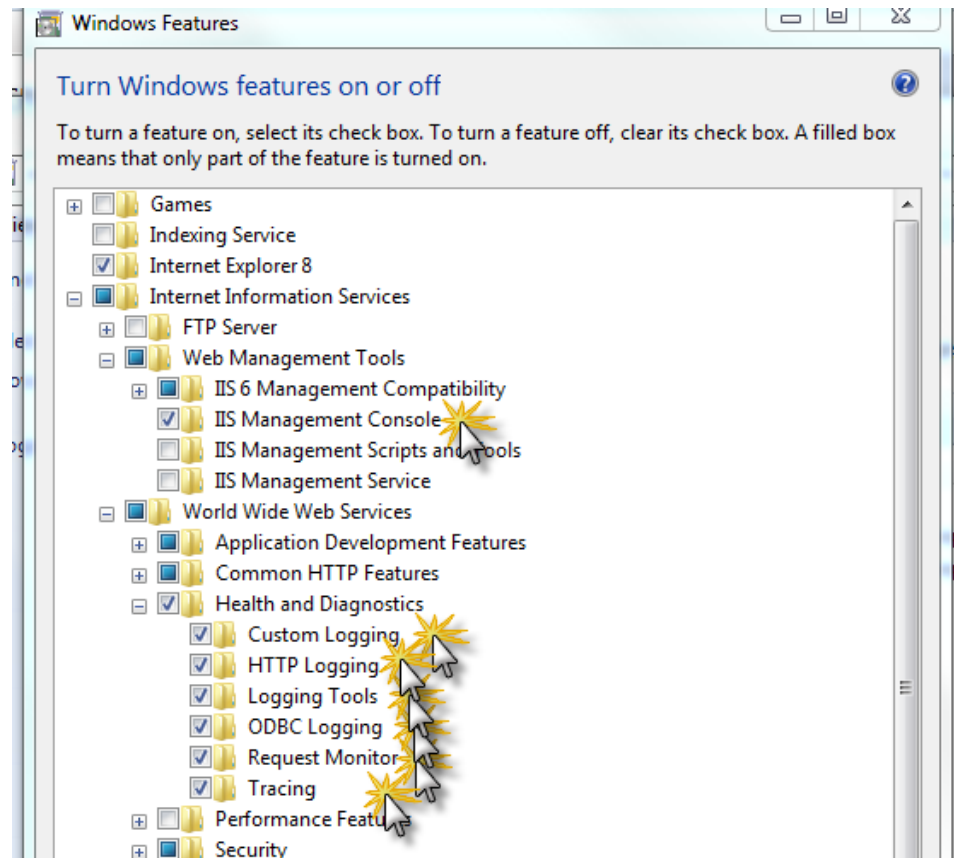
インターネット インフォメーション サービス

Web 管理ツール

IIS 管理コンソール **有効化(チェック)**

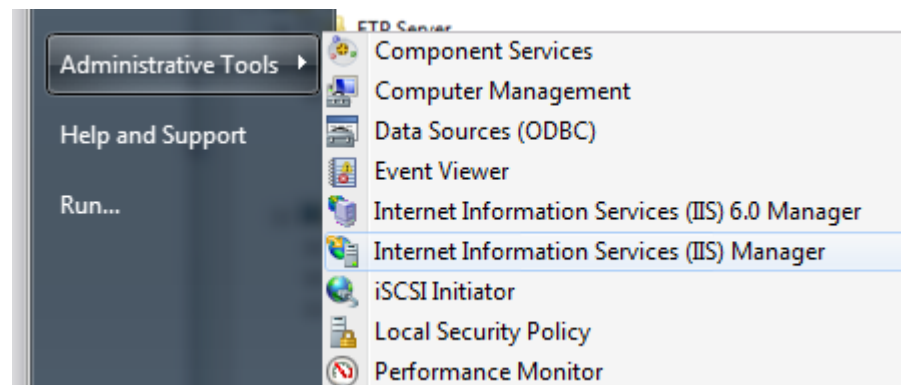
World Wide Web サービス

健全性と診断 **すべてのオプションを有効化**

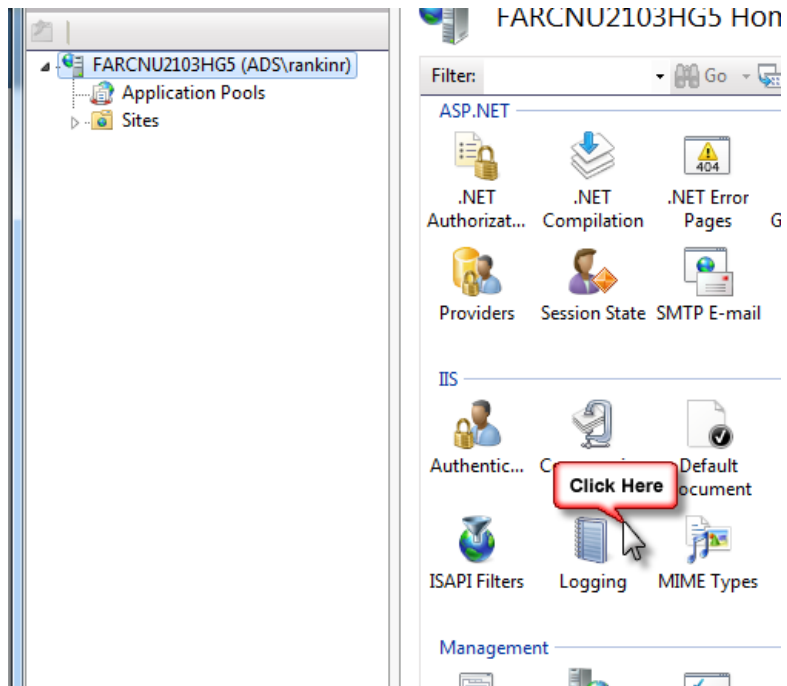


IIS を再起動します (コマンドラインから IISRESET を入力)。

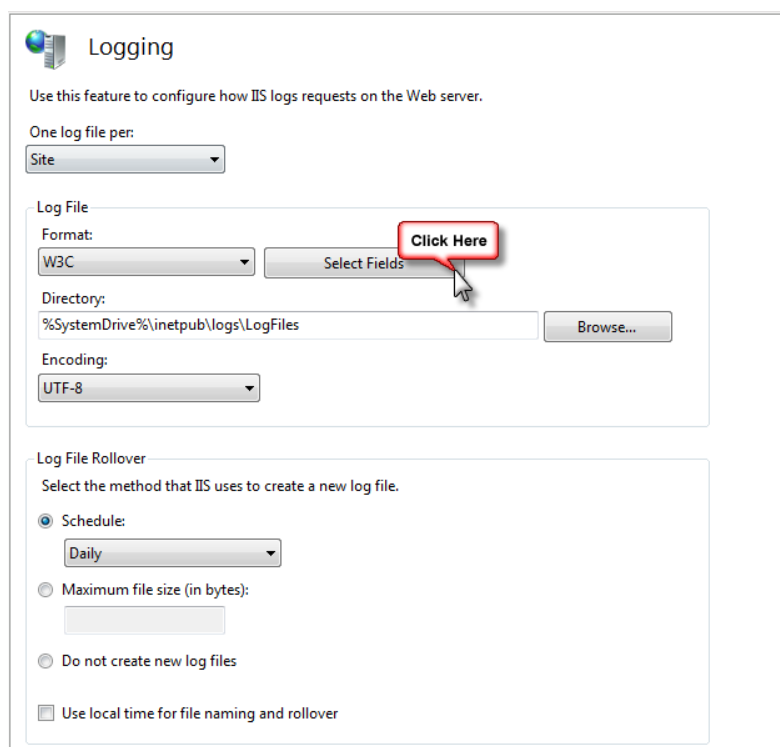
ログ機能のインストール後、インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャを開いてください。

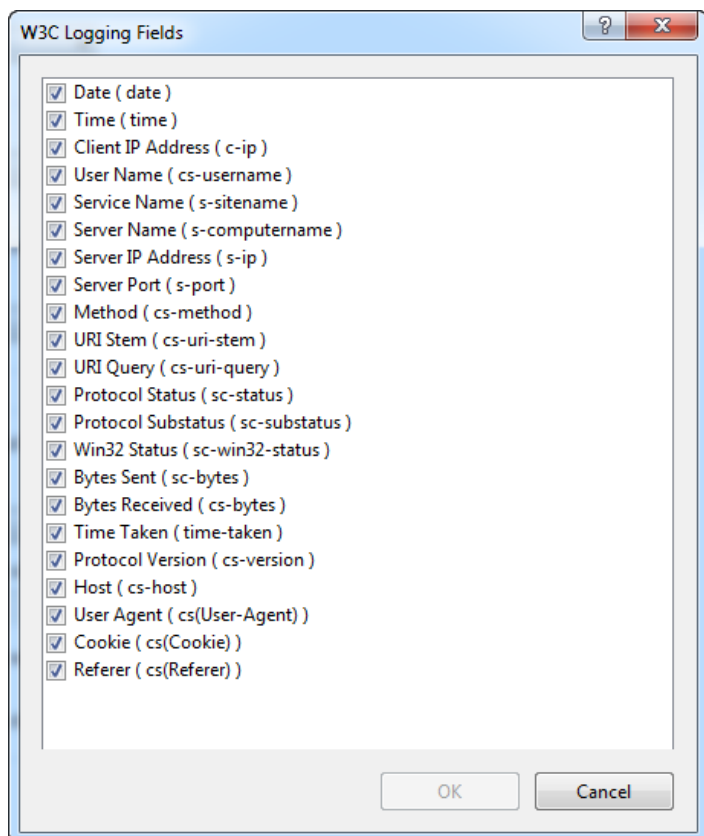


サイトを選択し、ログ記録をクリックします。



フィールドの選択をクリックし、すべての値が選択されていることを確認します。





Vault Collaboration と Professional 2013 のマルチサイト複製

このセクションでは、データを複数の作業サイトに複製した特殊な環境について説明します。

レプリケーション の拡張性

レプリケーション では、すべてのサイトに対して単一のデータベースを使用し、ファイル保管場所を各サイトに複製します。このアーキテクチャの大きなメリットは、実装が容易であることと、エンドユーザーがデータにすばやくアクセスできることです。ただし、サイト同士が遠く離れている環境やネットワーク速度の遅い環境には向いていません。サイト間の距離が大陸間にまたがっていないような場合に適しています。

レプリケーション に適した環境かどうか分からない場合は、パフォーマンスを簡単に評価できる方法があります。2つのリモート サイトを用意し、サイト間で1つのネットワーク共有を参照してみてください。リモート共有の応答が日常のアクセスに耐えられるレベルであれば、レプリケーション にも対応できます。Vault は http で通信します。これは、Windows システムでリモート共有の参照に使用される通信よりも効率的です。

複製環境のコンテンツ センター

はじめに

Autodesk Inventor の標準コンテンツは、Autodesk Vault Server がホストするライブラリ データベースとして配布されます。ユーザーがこれらのライブラリ データベースに Inventor からアクセスしてライブラリ コンポーネントを選択すると、それが自動的に Inventor のパーツ ファイルとして作成されます。一度インスタンス化されたコンポーネントは、Inventor のプロジェクト ファイルで定義されているフォルダに保存されます。その後、アセンブリをポータルにチェックインすると、インスタンス化されたコンテンツ コンポーネントも一緒にチェックインされます。

Autodesk Vault の複製環境では、Inventor のプロジェクト ファイルの設定を変更することで、コンテンツ センターのパフォーマンスを調整できます。

前提条件

ここで紹介する例では、コンテンツ センターを含むすべてのソフトウェアが既にインストールされていることを想定しています。また、読者の皆さんがコンテンツのインスタンス化と参照の機能を理解していることを前提としています。詳細については、コンテンツ センターのヘルプ ファイルを参照してください。

各例の図では、分かりやすいように SQL Server コンピュータを個別に設置しています。SQL Server は Autodesk Vault Server と同じコンピュータにインストールしても別のコンピュータにインストールしてもかまいません。どちらの構成でも、ここで説明するワークフローには影響はありません。

プライベート コンテンツ センター フォルダ

Inventor の既定値の設定では、各クライアントごとにプライベートのコンテンツ フォルダが作成されます。

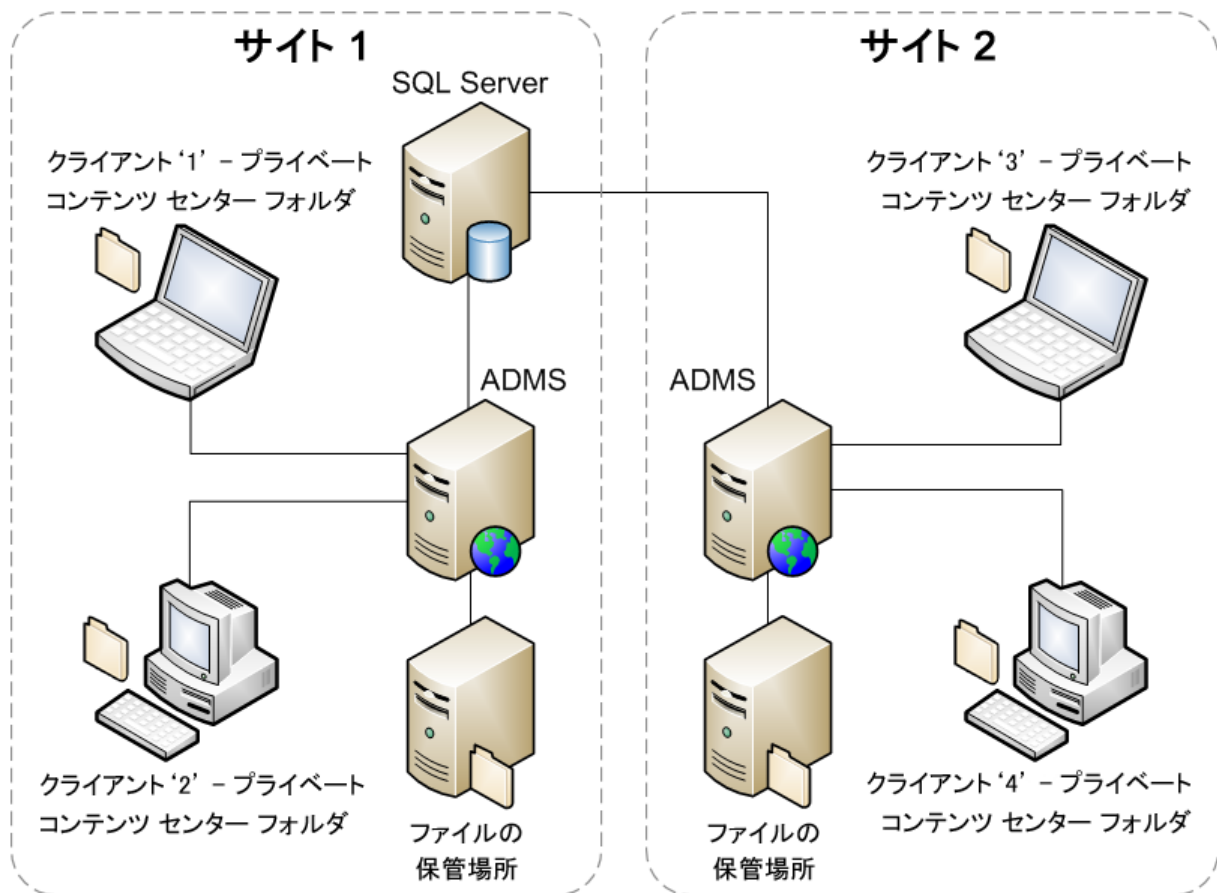
メリット:

- 既にローカルに存在するコンポーネントについてはネットワークトラフィックが発生しないため、アセンブリが多数のコンテンツ コンポーネントで構成される場合に適しています。
- ユーザーは、各自のプライベート コンテンツ フォルダに自分が必要なコンテンツだけを保存できます。

デメリット:

- 各クライアントにかなりのディスク容量が必要になります。
- それぞれのクライアントが、自分のプライベート コンテンツ フォルダに参照コンポーネントのインスタンスを作成しなければなりません。

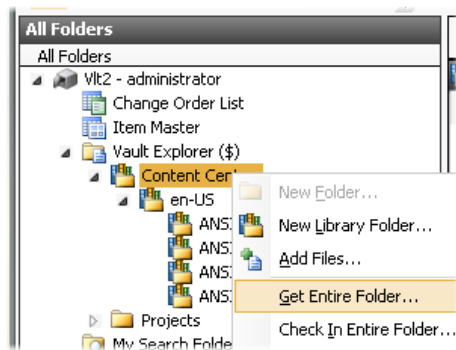
プライベートコンテンツ フォルダの構成例



1. クライアント 1 が、コンテンツ センター データベースからコンポーネントのインスタンスを作成します。インスタンス化されたパーツ ファイルは、クライアント コンピュータのプライベート コンテンツ センター フォルダに保存されます。
2. ユーザーがこのインスタンス化されたコンポーネントをアセンブリのパーツとしてチェックインします。コンテンツ パーツがボールド ファイル保管場所にコピーされます。
注: パーツ ファイルをローカル フォルダに保持することで、このユーザーはファイル保管場所から同じパーツ ファイルをインスタンス化したりコピーする時間を節約できます。
3. クライアント 2 が、クライアント 1 が使用したのと同じコンポーネントを挿入します。このパーツはまだクライアント 2 のプライベート コンテンツ センター フォルダには存在しないため、データベースからインスタンスを作成する必要があります。
4. インスタンスを作成した後、アセンブリをボールドにチェックインします。ボールドにはこのコンポーネントが既に存在するため、ファイル格納場所にある既存のコンポーネントを使ってアセンブリが解決されます。
5. 各 Autodesk Vault Server でスケジュールされている複製 (レプリケーション) の実行時に、コンテンツ コンポーネントが各サイトのローカル ファイル保管場所にコピーされます。
6. クライアント 3 が、クライアント 1 および 2 が使用したのと同じコンポーネントを挿入します。この場合も、リモート データベースからインスタンスを作成する必要があります。プロセスは手順 3 のクライアント 2 のときと同じですが、クライアントと SQL Server 間の距離やネットワーク遅延によってはインスタンス化に時間がかかる場合があります。

コンテンツ センター フォルダの取得

Vault シック クライアントから[フォルダ全体を取得]を実行すれば、既存のコンポーネントを再度インスタンス化せずに済みます。この操作では、コンテンツ センター フォルダと、ボールドにチェックインされているすべてのインスタンス化されたコンテンツが取得されます。この操作は、プライベートと共有のどちらのコンテンツ センター フォルダにも適用されます。新しいコンテンツが頻繁に作成される環境では、この操作を定期的に行うことをお勧めします。



改訂履歴

リビジョン	コメント	日付
1.1	Vault Server 2013 uses .NET 4.0, references to .NET 2.0 were removed. Removed references to IE7 Updated links for obtaining and installing SSL Certificates for IIS 6 and IIS 7 Updated SQL Express Maintenance plan	25/4/2012
1.2	Updated SQL Service pack level for SQL 2008 R2. Update SQL Maintenance Plans.	18/7/2012
1.3	Added more information for Extended Web Logs in IIS 7.0 or later. SQL Maintenance Plan is moved to the Vault Wiki. See “ SQL Maintenance Plans ” under Perform Vault Maintenance “Upgrading A Vault Site Server to a Connected Workgroup Subscriber” is moved to the Vault Wiki. See “ Upgrading A Vault Site Server to a Connected Workgroup Subscriber ”	30/08/2012